

ふ主張にも、私は感服は出来ないのであります、成程田舎には、比較的長壽者の多いのは、争ふべからざる事實であります、しかし其長壽者日常の行動を見ますれば、お寺参りか兒孫の守役以外には、殆んご用を爲さないのでありますから、生きて活き甲斐のない者と言ねばなりません、之に反して西洋人は、六十七の高齡に達しましても、顔面に皺一つなく、至極活潑に社會の事務に鞅掌しても、毫も疲勞を感じない勇氣は、何れより湧いて来るかと思し申しますれば、常に肉食を攝つて居るからであります、人体の營養に、肉食の缺ぐべからざるは、之に徴して充分立証は出来やうと思ふのであります、諸君が此獎勵會を、御發起になつた要旨も、之が爲めだと思ふのであります、されど如何に肉食が營養上必要なりと致しましても、これのみに偏するのは、決して策の得たるものではありません、

理窟は先づ抜きに致しまして、諸君と共に馬援の氣魄を學んで、大に詰め込んで見ますか、料理も最早出来たやうでありますから、お話は此位で切上る事に致します。

### 荷車荷馬車同業組合非常總集會に於て

オイ兄弟衆……今日親方から非常總集の命令に接しやしたから、眞先きに駆け付けて、其理由を尋ねて見るに、實にオツ驚愕で、ロアングリに致しやした、それは慙うでありやす、御互が常得意として居る、水車場、材木問屋、鐵材問屋、米穀問屋の面々が、いつ何處に密會密議を凝らしやしたのか、物價の下落にかこつけて、運送賃値下の通告を、親方の手元まで發しやしたそうではす、三分か

四分の値下なら、親方の考へ一つで、ウンミ快諾を與へる積りであつたそうだが、篋棒にも二割引ミ云ふんで、親方の疝癪玉もツイ破裂しやして、俺達全体を招集さつしやつたのでけす、親方は兄弟衆が知つての通り、口不調法なもんだで、貴様から皆んなに、よく此譯を話して呉れめいかミ、俺にお頼みなもんだで、俺が親方の名代に、此高い所に立つたんでけす、さて親方の言ひ分にや、景氣がよくて仕事の多い時には、機嫌さりくく彼方此方ミ、コキ使つて置きながら、今少し不景氣だからミ言つて、得手勝手に、運賃の二割下ターア、あんまり馬鹿にした仕方であるんだ、此處は一番、神戸の勞働者のやうに、同盟罷業をやらかして彼等に一ト泡吹かしちや、什麼かミ云ふんでけすが、兄弟衆の考へは如何なもんだか、遠慮する事はないこつた、銘々ざつくばらんで、意見を述べて貰いていも

183 演 講 さ 説 演

んでけす、今俄かに仕事を休んだ日にや、女房や小兒の顎が、乾上るミ云ふ心配もあるかも知らんが、此問題の極りが付く迄は、親方が一切引受けるミ云ふんだから、大船に乗つた積りで、安心してよいこつた、ナアニ物の四五日も、俺達の顔を見せずに置けば、品物は停滞する計りだで、先方から頭を下けて來る事は受合だよ、組合の顔の立つか、潰れるかミ云ふ、ドタン場だで、ウント禪を引緊めて、本腰を入れて貰ひやせう、餘り恁んな所に立つた事は、ありやせんから、言葉が後や先になつたかも知りやせんが、理窟だけは言つて了つた積りでけす、一寸親方に代つて、總集會開會の挨拶を致した譯でけす、

## 荷揚人夫賃銀値上同盟會に於て

諸君……聞く所によりますれば、荷車荷馬車同業組合は、運賃値下に反對して既に同盟罷業の通告を、當業者に發したそつであります、事の善悪は、局外者たる我々が、得て知る所ではありませんが、我々の雇主である荷受問屋の遣り口から想到致しますれば、彼等の得意先も、無意義な値下を發表致しました結果、止むを得ず最後の手段を擇んだものご信するのであります、我々は無論之に雷同する必要はありませんが、仕事高に準じて、賃銀の支拂を受けます我々は、運送業者の日給は、大に事情を異にする点がありますから、今日の如く、不斷の仕事がない以上は、多少値上の要求は、決して不當ではあるまいと思ふのであり

ます、兎角我國の資本家は、労働者を壓迫する悪習がありますから、談笑の間に解決し得られる事までも、互に嫉視反目するやうになるのであります、我々が今日同盟會を閉催するに至りました動機も、猶且荷主側の壓迫に基くのであります事の曲直を言へば、直は我々にありて、曲は荷主にある事は、誰が見ても瞭然たるものであらうと思ふ、さりながら今俄に罷業して、物資供給の圓滑を缺ぐやうでは、何等恩怨のない、社會の人々に對して、氣の毒な事でありますれば、仕事は仕事、要求は要求、互に分離して、値上同盟の精神を、荷主一般に徹底するやう、最善の方法を講ずるのが、我々の取るべき道であらうと思ふのであります、無暗に感情に驅られて、對敵行爲を取るが如きは、尤も戒慎せねばならないのであります、同盟會の開會に際して、聊か卑見を述べて、諸君の御判断に訴へ

るのであります。

### 荷受問屋同業相談會に於て

諸君……今日本會を開く事相成りましたのは、荷揚人夫共の要求に係る、賃銀値上に付て、如何に解決を與へたものか、其邊篤御相談申上げたくて、お集りを願つた譯であります、彼等の主張も、大に同情すべき點がないでもありませんが、漸次入船の減少を來しつゝある場合に、賃銀の値上云ふのは、御互の尤も苦痛を感じる所ではありまするが、もし彼等の要求を、全然容れない致しすれば、時代病に囚はれて居る彼等は、必ず怠業するか、罷業するか致しまして御互に迷惑を與へまするのは、明白の事であります、そこで景氣回復までは、現

在の賃銀で、辛棒致して貰ふやうに、懇談的に交渉致しましたならば、彼等も萬更ら御互の内情を知らない譯でもありませんから、必ず應諾するであらうと思ふのであります、萬一彼等にして、飽くまで其主張を貫徹せんする意氣組でありますれば、事情止むを得ませんから、其時は涙を揮つて馬騷を斬るの英斷に出づるより外には、道はあらまいと思ふのであります、さる場合には、臨時人夫を募集しましたならば、幾分仕事の敏速を缺ぐ憾みはありましたが、敢て荷物の積卸に大頓挫を見ることは、なからうと思ふのであります、斯の如く最後迄の御相談を遂けて置きますれば、よし彼等が非常手段を取るに致りましても、狼狽するの必要もなく、綽々對抗が出來やうか存じまして、御來會を煩した所以であります。

## ( に ) 講 演 体

## 日本 の 國 號 に 付 て

諸君……日本てふ國號は、いつ頃から確定したものが、文献の徴すべきものがあるから、分明にお話する事は出来ませんが、上古神聖の稱呼に係るもの、言ひ傳へて居りまするものに、豊葦原千五百秋之瑞穗國、秋津洲、浦安國、細戈千足國、磯輪上秀眞國、玉牆内國なごがあります、又異邦人の稱呼とするものには、倭國、倭而國、倭人國、耶馬臺國、姫氏國、扶桑國、君子國なごの稱へがあります、國史を繕いて見まするに、履仲天皇の御即位の四年に、始めて史官を置き、四方の志を通じさせ給ひてより、雄略天皇の即位九年までは、恰度七

十二年の長い年月であります、其間顯者の國際事件に致しては、吳人の來貢や、新羅討伐なごが、重要なものでありましたが、此時までは未だ史籍の徴すべきものがないので、異國や新羅に對する、我國の稱呼は、何ぞ唱へたものか、殆んど不明でありますのは、甚だ遺憾の至りであります、爾後天明天皇の和銅五年に、太安麿が古事記を撰集致しました、前後二百五十七年の間には、隋唐や三韓との交渉も、頻繁を極めましたから、自他帝王の國際的文書の往復も、昔日に什倍した事は、推想し得られるのであります、然るに未だ日本を以て國稱とした例は、見へないのであります、只だ修辭的に、日出る所の天子、書を日没する處の帝王に致す云ふのが、纔かに隋に對する國際文として、見はれて居るだけであります、元正天皇の養老四年に、舍人親王の編纂に係る史乘に、始めて日本書

紀てふ、命名を見るに至つたのであります、此点から考へますれば、日本てふ國號の確定した事は、天武天皇以後の事であらうと思ふのであります、唐の杜氏通典にも、日本てふ名稱が散見して居るのを見ましても、以上の推測は、大した過りはあるまいと思ひます、何にしる日本てふ名稱は、萬世一系の帝國を、代表するには、尤も權威ある美稱であると思ふのであります、未だ言ひ盡きない点もありますが、本日は之を以て終了と致します。

### 日蓮宗の團扇太鼓

諸君……無数の老若男女が、南無妙法蓮華經、ボンボコボン／＼と、團扇太鼓の音勇しく、市中を練り歩きます、日蓮信者の快活なる行動を、御覽になつた

方は、又必ず振鈴の音物淋しく、歸命頂禮遍照尊と、泣くが如く訴ふるが如く、讚美歌を合誦し、各戸の接待を受けつ、札所巡りを致します、眞言宗徒の連袂行列も、御覽になつたであります、前者は豪壯に、後者は悲哀に感じまするが之は強ちに私一人でなく、諸君も必然しかく御感じなさるに相違ありません、眞言の開祖弘法大師は、一法門を立てるだけ、事々人に超絶せる才徳がありました、たから、淳和嵯峨二帝の御歸依も深く、弘仁七年には、已に勅許を得て、紀州高野山に、靈場を開いた位でありましたから、天下は靡然として、大師を渴仰するやうになつたのであります、然るに後世其餘流を汲む者が、名を眞言秘密に托して、専ら禁厭祈禱を以て、愚夫愚婦の信仰を、維持せんと思ひましたので、大師が垂教の閃きも、之が爲めに遮蔽せられた憾みがないでもありません、そこで

現時の眞言宗徒は、潑刺たる信仰がありませんから、大師の盛徳大業を讚美するにも、活氣なき哀調を放つて、敢て怪まないやうになつたのであります、實に大師の靈徳を棄す罪人と言はねばなりません、日蓮上人は、弘法大師より先見の明があつたか、又法力も絶大であつたか、此等の比較は、私の好む所ではありませぬが、法燈微滅、彝倫地を拂ふの時に方つて、鎌倉の十字街頭に、瓦礫の雨に浴しつゝ、眞言滅國、禪天魔の獅子吼を敢てして、時の荒武者をして、終に脚下に跪伏せしめた日蓮の氣魄は、殆んど天地を囊括する底の概があつたのであります、かるが故に彼が一たび南無妙法蓮華經の大旗を翻へしまするに、既成の宗教は屏息して、グーの音も洩らす者が、なかつた位であります、彼は宗教界の刷新者たるばかりでなく、元寇の豫言者たるに於ても、亦た大に尊敬を拂ふべきものであ

ります、殊に彼に尤も推服すべきものは、平生弊衣粗食に甘んじて、衆生の濟度に、一生を捧げました、鬱勃たる元氣は、有史以來、圓頂縮衣の人には、多く其比を見ざる所であります、されば靈徳の然らしむる所でも申しませうか、彼が建立に係る、武州の本門寺は、法燈綿々、益々隆盛に向ふのみならず、其巡錫の地方にも、日蓮堂宇の改築やら、日蓮銅像の安置やらで、今や日蓮宗の勢力は開祖の氣魄同様、殆んど旭日昇天の概があるのであります、弘法の開基された、紀州高野山も、萬民瞻仰の靈場として、賽者殺到の盛況を呈したものであります、たが、弘法の法子法孫等が、近頃殿堂門廡の修繕に藉口して、林木の濫伐を敢てしたり、參調者の繁昌策として、靈場に割烹店の濫設を許したり致しますので、女人禁制の靈地も、漸次歌吹の海に化すするのは、情けない次第であります、要

するに日蓮宗は、恰も活火山のやうであります。眞言宗は既に死火山となつたのでありますから、鳴物の上にも、豪壯となり悲哀となるのは、當然の因果であらうと思ふ、斯く申せば、私は妄に日蓮宗の爲めに、太鼓を叩くものでない事は、御断り申上げて置まます。

### 女房と鐵砲

佛法、鐵砲、女房は、世の中の三寶云ふ位でありますから、いづれも大切に尊重しますのは、取りも直さず、自己を尊重する所以なるのであります。佛法の鐵砲の講釋は、専門家に譲るに致しまして、私は専ら女房に付て、お話し申上る積りであります。古人が人心の同じからざるは、猶其面の異なるが如し、申

しましたのは、實に千古の金言であります。兄弟姉妹でも、容貌が異なれば異なるだけ、其氣質も亦た異なるものであります。此の如く人の容貌や氣質は、千差萬別の觀があります。之を概括して見ますれば、女房氣質なるものは、大要左の如きものであらうと信ずるのであります。先づ一番厄介なものは、嫉妬深くて喜怒時なきものであります。異性の心理状態を解さない者は、婦人の嫉妬は、多く男子の不品行より起るに申しますが、強ちにそうかは限らないのであります。嫉妬心の萌して来る第一の原因は、女房の地位が卑くて、容貌も他の視線を惹く程でない。他の地位あり容色ある婦人を見れば、自己に何等の關係なきにも拘らず、忽ち嫉妬の情を催すものであります。されば自己の良人が、何氣なしに、他の婦人と會話を交換するか、出先の歸りが遅れるかするに、無暗に心を痛め、



餘計な處まで考へ過して、良人に喰つて掛るものであります、之を慰撫する程のお目出度良人であれば、自然鎮靜を見るに至りますが、大喝一聲、其不嗜みを詰つたが最後、恰も烟硝に火を放つたやうで、其危険實に言ふべからずであります、併し嫉妬心の猛烈なる女房は、畢竟は良人想ひの結果でありますれば、一概に排斥すべきものではありませんが、此種の婦人は、安月給取か、小商人の女房たるに於ては、重寶であります、大仕事を營む者の女房には、大々的禁物であります、次ぎは怠惰で虚榮心に富んだ女房の、心理解剖に着手致して見ませう、此種の婦人は、自己の容色を負んで、濫に盛粧を凝らしたがるものであります、盛粧を凝らすのは、良人の愛を買んが爲めでなく、他の健美を買んが爲めであります、敢て節を賣らうと云ふのでもありません、嚴格なる意味から言へば、一

種の病的たるを免れないのであります、家庭の整理や、兒女の教育なさは、到底托するに足らないものであります、容色は艶美でも、心術が方正でないから、恣んな身代潰しの女房は、御免蒙つた方が、先以て無難であります、寡言にして貞操堅固なるものは、壺阪靈顯記のお里見たやうな、純日本式貞女の風はあります、が、輕快なる点がありませんから、家庭は兎角陰氣になり勝であります、少しく良人の疝癢に觸れば、それを苦にして、落涙潜々、終日無言で畢る事も珍しくはありません、嫉妬深い女房や、虚榮に趨る女房よりか、重寶なる事は、金と銀との差別位ちやありませんが、理想的の女房としては、未だ至れる者ではありません、まい、然らば如何なる女房が、佛法、鐵砲、三對立して、三寶の一に加ふべき者であるか云ふ事になります、先づ容色は少く劣る点があつても、凛乎たる性

格を備へて、判断力に富める者が、眞に三寶の一に數ふべきものであらうと思ふのであります、苟も容色や財産を目的に、結婚致しまするに、終生三寶の難有味を知ることは出来ないでありますから、女房擇びは、人生の最大要件に、御承知下さらば、私も始めて喋舌甲斐があるのであります。

### 人參の効用に付て

漢方醫が風邪治療の良劑として、常に慣用致しまする葛根湯には、麻黄云ふ下熱藥が、加味されてありますから、大抵の場合には、此處方で奏効するのであります、萬一熱が下らない時には、犀角か人參を用ふるのが、漢方醫の奥の手であります、西洋醫は犀角に付ては、今猶其効能を疑つて居りますが、人參だけは、獨

逸の名醫が、種々研究の結果、其成分に對して、完全てふ二字を下した位でありますから、我國の醫者も、今日では之を草根木皮として、排斥するわけに參らなくなつたのであります、未だ之を應用する醫者はないやうであります、何にしろ今まで漢醫漢藥を、一厘半錢の價値ないもの、痛撃致したものですから、今俄に之を用ふるになれば、自己の沽券が下る恐れがありますれば、止むを得ず強情を突を張つて、アンチヘブリンや、アンチペリンで間に合せて居るのであります、ヘブリンやペリンは、餘り續用すれば、副作用を起す危険がないでもありませんが、人參にはさる弊害がありませんから、安心して服用してもよいのであります、トロに人參を申しますが、髯人參、朝鮮人參、廣東人參等の異名同質の物が、色々ありますから、服用する時には、廣東人參を選ぶがよいのであり

ます、人參流行を奇貨として、種々の飲食物に加味して、無上の滋養あるかのやう、誇大的に鼓吹する商賣人の駄法螺には、御注意あつて然るべしと存じます。

### 肉体美と服装美

歐米各國は、夙に審美學が發達して居りますから、肉体美に對する研究も、却々進歩致したやうであります、されば裸体美人畫を扇額として、之を賞玩する者があつても、之を咎める者もなければ、又之を怪むものもありません、まして之に對して劣情なき起す程の馬鹿ものは、藥にしたくもないのであります、處が……日本は西洋とは、國情が異なること云ふので、裸体美人畫は、いつも非常な虐待を受けるのであります、其一例を挙げますれば、文展か院展に、裸体畫が現はれま

するに、必ず風俗壞亂とか、劣情挑發とかの物議を醸すのであります、會々出品となつても、美人の或局部には、貸家の張札然たるものが、貼付されるのでありますから、日本に居ては到底裸体畫の眞美を味ふ事は出来ないのであります、實に奇妙變挺古な話ぢやありませんか、一体官憲が裸体畫を見ることは、肥桶よりも醜穢なものに心得る、其心理作用は、非禮視る勿れとて、道學觀念から來るものでありませうか、それとも夫子自身が、之に對する一刹那の感情を抑止するに、多大の骨が折れるので、是れは一層衆人の視線に觸らさない方が、無難であること云ふ、博愛心より起つたものでありませうか、果して然らば、今の官憲は餘りにお先きが見へないやうであります、何となれば現代の演劇や小説を見ても判る筈であります、此等は殆んど肉体慾の成功と、失敗を語つて居るではありません

んか、其風俗を亂し其劣情を咬ることは、却々裸体美人畫きころの騒ぎぢやないのであります、一方の取締は嚴に失しながら、一方は寛大に流るやうでは、社會風紀の肅整を計るに於ては、何の功能もあるまいと思ふのであります、斯る専門的の事は、寧ろ美術家に一任して置いた方が、却て得策であります、話が稍脱線致しましたが、之から肉体美と服装美を、概説致す事に致しませう、肉体美と服装美は、一言以て之を蔽へば、處女と娼婦の異同あるやうなものであります、娼婦の美は、白堊の白の如く、下地の醜点汚点を、上から塗つて塗つて、塗り陰して居るのであります、處女の美は、白玉の白の如く、八面玲瓏、毫も修飾を須るないのであります、それと同じく肉体美は、一点修飾ない眞の美であります、服装美は、其眞價の一刻以上は、裝飾によつて保たれて居るのでありますから、

到底肉体美と、日を同ふして語るべきものではないのであります、世の似而非道學者輩は、眞の美を天然の花に求めん致しますが、私は寧ろ露骨に、眞の美は、肉体美に求むべきものであると、斷言するのであります、之は劣情でも何でもあります、ほんの眞情の發露であります。

(ほ) 演 説 体

貿易商發展會に於て

諸君……本會組織の際には、役員の選舉で、多少の波瀾は起つたのであります、會長原野太君が、公平なる調停によつて、圓滿の解決を見るに至りましたのは、本會の爲めに、尤も祝福すべき事と思ふのであります、我々の取引先であり

まず中華民國に、又々近頃内亂が發生致しました爲めに、海産物の輸出が、殆んど杜絶の有様でありますから、之に付て協議の必要があると云ふので、本日會長より御招きを受けたのでありますが、私は本會理事の資格によつて、聊か意見を述べて見たいのであります、今回の内亂は、南北二方面の巨頭が、互に勢力を争ふの極、爆發致しましたもので、別に深甚の恩怨關係があるに云ふのではありませんから、將士も共に戰意はないやうであります、此處數日の後には、双方の互譲によつて、必ず鎮定するのであらうと思ふのであります、何にしろ我々の輸出品は、他の雜貨なごゝは、其性質を異にする強味がありますから、自然の必要上今日の閑散は、他日の繁忙なる事は、毫も疑ふの餘地はないのであります、然るに或る一部の組合員は、眼前の小變動に狼狽して、商品の濫賣を開始したそ

であります、實に思はざるも亦た甚しいと言はねばなりません、此際我々は動かざるこゝ山の如してふ態度で、形勢の推移を見る事が、尤も肝要であらうと思ふのであります、其局面の變化如何によつては、從來南方のみに發展し來つた、我々の商略も、或は又他の方面にも、手を延すの必要があらうと思はれるのであります、協議細目は、會長より御提案ある筈でありますから、私は之にて壇を下る事に致します。

### 紡績會社女工慰安會に於て

私は此會社には、何の關係もありませんが、社長は年來の懇意でありますので、今日女工慰安會を開くから、一寸出席して、皆さんへお話致して呉れ、社

長からの御依頼がありましたので、私は喜んで罷出たのであります、今日は御馳走や餘興が、澤山あるそうでありますから、お話はなるだけ簡単に致す積りであります、さて皆さんの御両親が、妙齢の婦人を、手元から遠く離して遣らうご云ふには、色々家庭の事情もある事でありませうから、それを恨んだり、嘆いたりなさつては、ならないのであります、人情として親子俱に暮す事を好まないものは、恐らく一人もありませんが、時と場合によつては、吾妻謠のやうに、「父は吾妻へ子は不知火に櫻花かや散りく」に云ふ、遠離苦別の悲みを嘗めねばならない事もあります、そこで親が子を思ふ切なさを、皆さんは能く考へられました、常に身体大事に、仕事を勵んで、月々受取つたお金は、事情の許す限りは、成るべく多く親元に送るやうに、心懸けねばならないのであります、親元

に送つてさへ置けば、家庭も自然豊かになるのでありますから、嫁入する場合でも、箆笥事他の準備も、譯なく整ふものであります、萬一皆さんが、親の手元から離れたのを、一、幸ひとして、活動や芝居見物に耽つたり、買喰ひに無駄のお金を使つたりして、家庭を思はないやうな事がありましたならば、親御の落膽は申すに及ばず、いつかは其身も、倫落の深淵におつ箆り、仕事なんかは厭になつて、彼方此方を彷徨た揚句が、いやな病氣に引つ罹り、生れも付かね片輪者になつて、親兄弟にも生耻をかゝする事がないことも限らないのであります、皆さんは慙んを不品行な事は、斷じてないご信じまするが、兎角若い中は、男にまれ女にまれ、考へが淺基でありますから、一寸した動機で、墮落するものであります、されば指導の任に膺つて居られる、役員方の命令を、能く遵奉されて、ゆめつゆ

も浮いた心を、起さないやう心懸けなくてはならないのであります、よく静かに私の話を御聴き下さつた、皆さんの誠意に對しては、私は厚く御禮を申すのであります。

### 保險會社創立祝賀會の辭

本會社の創立祝賀會開催に際し、來賓及び株主諸君に、親炙するの光榮を荷ひまするは、私の尤も欽幸とする所であります。

諸君……古人は渡世の艱難を嘆じて、「世の中を渡り較べて今ぞ知る阿波の鳴門は波風もなし」と、諺つて居りますが、如何にも人間一生の世渡りは、渦巻く阿波の鳴門を、乗り切るよりも、より以上に困難なるには相違ありません、此

困難を侵して、目的の彼岸に到達せんとするには、般海に舟楫の必要あるが如く渡世にも嚴乎たる覺悟がなくてはならないのであります、總じて何種の事業を開始するにも、第一に要するものは、資本であります、しかし事業其物の性質が、穩健實着であつて、而も収益の見込が確かであれば、投資者を得る事は、左まで困難ではないのであります、資本に伴ふべき經驗と智識も、時あつては他の力を借りても、間に合ない事はありませんが、之を統轄する所の經營に至つては、一日他人の容喙を許すべきものでもありませんから、之は餘程困難なものであらうと思ふのであります、餘りに大事を取つて、躊躇逡巡するやうでは、機會を逸する場合もありませうし、其れかご申して、餘りに突進すれば、盲羊藩に觸るゝの憾みないごも限りますまい、進むにも時あり退くにも時ありで、其時を尤も敏捷

に看取して、之に處して行く事が、秘訣の存する所と思ふのであります、斯くま  
で注意を拂つても、時利あらずして、失敗を招く事もないではありません、一時  
の失敗は忍ぶ致しませんが、不幸にして二豎の侵す所となつて、一家一同が忽  
ち餬口に窮するやうでは、到底再起を企圖することは、不可能であります、斯る  
事變に際しても、綽々乎として、善後策を講ずる事の出来るのは、平生の覺悟如  
何による事は言ふまでもありません、覺悟と言つても、何も複雑な事はないので  
あります、本社の如き基礎の鞏固なるものに、有限保険が養老保険に加つて居さ  
へすれば、いざ云ふ時に、直ちに役に立つのでありますから、何は措いても、  
有限保険だけでは加入の必要があるのであります、満場の諸君は、簡計り見易い事柄  
は、私が絮説致しませんが、萬々御承知の事でありましたら、切望——創立祝

賀の意味にて、有限若くは養老へ、即時御加入下さるやう、切に御願ひ申上たい  
のであります、開宴に先ちまして、御挨拶を兼ねて一寸お願ひまで……。

### 盆踊復活を祝するの辭

地方政治に干與する官吏は、中央政府の官吏と異つて、直接人民との交渉が頻繁  
でもあり、且つは其事務も複雑なものであるから、取り分け頭腦が明敏で、而も  
人情の幾微を洞見する位の通人なくては、到底政治の成績は擧るものではあり  
ません、我が音梨郡の如きは、政治智識が未だ幼稚でありますから、至つて平穩  
無事でありましたが、前郡長前野不明氏が、昨年俄かに盆踊を差止めましたので  
郡内の青年團も、始めて一齊に憤起して、部長の處置に反對致したのであります



郡長の意見としては、妙齡の青年男女が、夜中手に手を執つて、狂歌亂舞する事は、風俗壞亂の因を作るに云ふので、強ちに理由なしは致されませんが、數百年來、舉行し來つたものを、さる單純な理由で、差止めるに云ふのも、少しく早計に失したやうであります、幾多の青年男女が、三百六旬、稼穡の艱難に従事して、敢て苦痛を訴へませんのは、畢竟するに盆正月か五節句かの、休養を樂みに働くのでありますから、其期に及んでは、諡ふも踊るも彼等の自由に一任すべきものだと思ふのであります、さるを法文によつて、取締を爲さんとするのは、所謂拘子定規に云ふもので、民情に通ぜざるも亦た甚しいに云はねばなりません、些し申し悪い事ではあります、人生を達観すれば、名も戀この二つに過ぎないのであります、されば想思の男女が、合誦舞踊しつゝ、戀の成立を計るに云ふの

は、尤も神聖なものでありますから、何も岡焼半分に、之を差止める必要はないのであります、這回就任せられました、木野郡長は、就任後、屢郡内を巡視して、深く心を風俗習慣に注がれました結果、我郡の美風良俗に諸はれた、祖先追孝の盆踊は、木野郡長の好意によつて、愈々復活する事になりました、這是官民の融和を計る上から申しまして、實に慶賀すべき事であり、只だ一言青年諸君に警告して置きたい事は、斯る機會を悪用して、徒らに陽臺に眠を貪つて、各自の業務を怠るやうでは、特に木野郡長の好意を没却するのみならず、我青年一般の面目を損ずる所以でありますれば、切望——其心して盆踊の復活を、意義あるものさせられんことを望むのであります。

## 奉公人慰勞會に臨みて

自分は新聞で承知したが、這回神戸の勞資爭議で、流血の慘禍を見るに至つたのは、返す返すも遺憾の極みである、勞働者側の主張が相當であつたならば、會社が之を容れさいすれば、何事もない筈だが、利益削減の恐れがあるもんだから、無情なく其要求を拒絶した爲めに、意外の事變を惹起して了つた、三菱川崎兩會社の職工を合算すれば、三萬五千人以上である、一ヶ月一人に對して、一圓宛加給するにしても、三萬五千圓であるから、職工側の要求通りに、二割以上も給與する事になれば、會社としては大打撃には相違ない、そこで其中間を取つて、互の顔の立つやうにすれば、軍隊の出動や、警官の拔劍なんか見ずに済んだ筈だ

215

演 講 と 説 演

が、其處が人間の淺ましき所で、互に慾の皮を突つ張つた計りで、飛んだ不幸を見るに至つたのである、さて御互が雇主となり雇人となつて、一つ釜の飯を喰ふのも、何かの因縁であらうから、御互は御互の心を能く諒解し合つて、給金問題なんかで、神戸の勞資爭議のやうな、見苦しい事は起したくないものだ、刻下不景氣のドン底に陥つて居るから、手當も思ふやうに届き兼ねるが、今少しの間は現狀に甘んじて貰ひたいものである、一体不平云ふものは、自他の差別を立つるから起るもので、雇主もか雇人もか云ふ城壁を去つて了へば、いづれも家族の一員で、財産の幾分は、自分のものであると觀念すれば、苦痛もか不平もかある筈はない、何でも愉快に事務に従事するのが、各自の幸福であらうと思ふ、今日の慰勞會も、つまり各自の親睦を厚くしやうと云ふのであるから、大した御馳走

はないが、心置きなく、大に飲み大に食ひ、各自隠し藝の一つも出して貰ひたいものだ、一寸慰勞會の挨拶を……。

### 盆栽會席上に於て

人間の品位は、趣味の雅俗如何によつて、一昂一低の差別が生ずるやうであります、如何に名門に育つた人でも、其趣味が劣悪でありますれば、自然其人の品位も劣つて來るやうであります、之に反して身分尊からざる家に生れましても、趣味が高尙であれば、従つて其氣品も高尙になるのであります、趣味の高下は、人の品位に大關係を及すものでありますれば、其選擇には細心の注意を拂ふべきものであります、松野作造君は、深く盆栽に興味を有せらるゝ人でありますが、君

の自製に係る、盆山盆池は、恰も天然泉石の奇趣がありますから、賞玩之を久ふすれば、宛然身は丘壑の間に佇立するの想が生ずるのであります、松野君は獨り此樂を私するを欲せずして、普く同好の士を拓集して、愈々盆栽會を起されたのであります、陳列の盆栽は、女人も三舍を避くべきものがありますから、回を重ぬるに従つて、益々観るべきものが現はれるのでありませう、會員諸君は之によつて、品性を陶冶せられて、温良恭謙の君子人になられたならば、本會の設立は、大に世の風教上に資する所が、あるやうになるのであります、私は衷心より、會員諸君の奮勵一番を希望するのであります。

## (ほ) 講演体

## 本妻と權妻

堯と舜とは、東洋倫理の最高標準となつた、二大聖人であり、特り倫理上のみならず、政治上に於ても、理想的の大政治家であつた事は、堯舜を祖述せる孔子が、巍々乎たり蕩々乎たりの頌讚によつて、推知するこゝが出来るのであります、只だ私が不審に堪へませんのは、君子の教は端を夫婦に爲す云つてある位結婚條約の嚴重なる支那の古代に、亂倫敗徳の所爲が、二大聖人の間に公行せられた一事であります、舜が其父瞽瞍の許しを待たず、堯の二女娥黃女英を迎へ、堯が又舜の父に一言の挨拶なしに與へました、非倫行爲に付ては、萬章も疑を挾

んで、其師孟子に質問を試みた事があります、孟子は舜が堯の娘二人を妻とした事の善悪は度外に措いて、男女同棲は人間の大倫であるから、父に告げるこゝ告げないこゝかは、問題でない、萬章が疑問の矢を外らして了つたのであります、流石辯を好む孟子も、之には些々閉口致したやうであります、舜が堯の姉娥黃一人を娶つただけでありますれば、寧ろ舜の立場に同情して、兎角の批難は見合せた方が、先賢を敬する所以であります、二人の娘を授受した事は、遺憾ながら非倫でないとは、言はれないやうであります、夫の周禮や儀禮や、太戴禮などの諸書に、掲げてありますやうに、後世の帝王が、三后、九嬪、二十七世婦を、輪番夜に當らした、一牡百牝の膾膾膾の淫行も、要するに堯舜が俑を作つたものご申しましたも、恐らく之を拒むの辭柄はあるまいと思ふのであります、孟子の

門人萬章すら、既に其非を悟つた位でありますから、後の識者が之を知らない筈はないのでありますが、之を云爲すれば、堯舜の徳を損する所以でありますから故さらに沈黙を守つて居るのでありませう、再來一妻一妾は、士の當りなつて、蓄妻の弊風は、終に天下に瀰蔓するに至つたのであります、勿論之は支那ばかりぢやありません、我邦の歴史を繙いて見ましても、頻りに堪へないものが幾程もあります、足利以前は暫く措き、徳川氏の世となりまして、先づ家康が結婚政略を以て、自家の傳統を、永遠に持續せんを企圖致しましたから、蓄妻の悪風は、忽ち諸侯にも感染致しましたので、所謂御家騒動なる者が諸國に簇生致したのであります、御家騒動を云へば、皆妻妾所生の相續争であつた事は、諸君も御承知だらうと思ふのであります、降りて明治の世となりましては、風紀も稍緊密し

たやうであります、維新の風雲に乗じて、僥倖の芋蔓に取り付いた、薩長土肥の成り上り共が、糟糠の妻を本國に残して、單身各地に赴任致したものでありますから、到る處に權妻を聘して、淫樂を貧つたものであります、以前はテカケ又はメカケと言つたものであります、明治の初年、芋蔓黨の面々が、本妻に對して權妻の稱を下したのであります、それが又今日では、第二夫人と改稱されたやうであります、明治九年、肥後の神風黨が、一揆を起して、深夜各官署に亂入致しました際に、剛勇無比の稱ある、種田少將も、權妾を同衾中に、首級を擧げられた位でありますから、再餘の顯官大職が、權妻狂になつた珍聞は、擧げて數ふる事は出來ないのであります、何にしる一夫一婦の制度が、勵行せられない限りは、權妻黨の横行は、到底免れる事は出來ないのであります。

( へ ) 演 説 体

米 壽 祝 宴 の 辭

本日木野安翁の八十八の祝宴に、陪席するの光榮を得ましたのは、私の尤も幸慶  
 とする所でありませう、人生七十古來稀と申しまして、七十の長壽は、古稀の  
 齡にして、尊重致すのであります、然るに翁は古稀の齡に、更らに十八を重ねら  
 れまして、瞿瞿壯者を凌ぐの概がありますのは、恃り翁の幸福なるのみならず  
 御一門の幸福の中さねばならないのであります、古語に積善の家には、餘慶あり  
 と云つてありますが、翁の今日あるも、畢竟祖先積善の餘慶に外ならぬと思ふ、  
 天保十五年五月十一日に、夫の永代橋の竣成に際して、三河の百姓萬平が、高齡

二百四十三歳の身を以て、高下駄を穿ちて、渡り初めを致しました事は、今猶人  
 の語草となつて居りますが、之を翁が日々頻到せる、内外幾多の雜務に鞅掌し  
 て、毫も嫌厭の色なく、ズン／＼裁決を下される、明敏の頭腦と、潑刺たる元氣  
 に比べますれば、萬平が肉肉的の強健は、左まで誇稱に値ひせないのであります、  
 今後益攝養を加へられましたならば、身神の健勝なるは、今日より多く異なる  
 事は、あるまいと思ふのであります、謹んで壽觴を翁に献じて、今日の盛事を  
 祝福致します。

兵 士 歡 迎 會 の 辭

金石も爲めに鎔んずる、此炎熱を侵して、諸君が軍務に服される勞苦は、實に感

激に堪へないのであります、南軍に屬せられた諸君は、接戦三晝夜にして、終に北軍を數里の外に撃退せられましたのは、將校の戰略其宜しきを得たるは、言ふまでもありませんが、諸君が奮戦苦闘の功も、亦た大に與り存するのであります今日我村落に宿營せられるに際し、聊か諸君の勞を慰めんが爲めに、此歡迎會を催しましたが、何にしる斯る事には、不慣れな者ばかりでありますから、諸君の御満足を得ることは、到底出來ないのであります、切望——我々の微衷の存する所を諒みせられ、十分歡を盡して戴きたいのであります、一同を代表して、歡迎の意を申上る次第であります。

### 米穀商卸値協議會に於て

日用品中尤も重要な、米穀を賣買致しまする者は、相場の高低によつて、兎角世評に上る事が多いやうであります、天災地變に際して、相場の大變動を來しました場合でも、動ちすれば一部の人士は、人爲的に釣り上げたものにして、批難攻撃を逞しくするのでありますが、實に其意を得ざる事ではありませんか、定期米の如きは、奸商輩の買煽りに因て、人爲的に釣り上げる事も、ないではありませんが、我々の如く現米商賣に従事する者は、さる残忍の事まで敢てして、一般細民の生活を脅威するやうな事は、斷じて爲さないのであります、處が……小賣商人の惡弊として、値上の折りには、一足飛に二錢三錢と、競り上げますが

いざ値下ねさげこなれば、故ことさらに荏苒じんぜん數日すうじつを空過くうくわして、漸やうやく五厘ごりんか一錢いちせんしか下さげないのであります、勿論もちろん升賣ますうりは下手へたに出でれば、量込はかりこみがあつたり、掛かけになつたり、色々の事情じじょうが簇出そくしゅつするもので、卸商おろしやうの如ごとくハキ／＼相場あひばを上下じやうげする事は出来できますまいが、我々われら米穀商まいこくしやうに對たいして、將來物議せうらいぶつぎを起おこさせないやう、先づ卸商おろしやうの我々われらからして、成なるべく利得りどくを小賣商こうりやうに譲ゆづるやうに致いたしましたならば、彼等かれらも商業道德せうぎふもつとくの重んずべき事は、承知致せうちちたして居ゐる筈はずでありますから、是これまでの如ごとく、卸値おろしねも小賣値こうりねに、多大ただいの懸隔けんかくを見る事も、なくなるだらうと思おもふのであります、果はたして然しからば世人せいじんの疑惑ぎわくを解とく事も、出来できやうではありませんか、今日開會こんにちかいかいの要旨やうしを、一寸ちよつぷ私わたしより申上まをしある譯合わけあひであります。

(一八) 講 演 体  
平 凡 的 説

魯叟談ろそうだんニ五經ごけい。白髮死はくはつしニ章句しやうきう。問以もんいニ經濟策けいぎさく。茫如まうじゆノ墜たいニ烟霧えんむ。世よの學究がくきゆう輩はいは、總いて恚いんなもので、活社くわつしゃ會かいには殆ほとんど没交渉ぼつこうしやうであります、使つかひ道みち一つでは、案外あんがい役に立たつ事こともありませんから、敢あへて見限みかぎつたものではありません、生來せいらい不讀ふどくニ半行はんぎやう書しよ。只把ただニ黄金くわんごんニ買かひ身貴みき。今いまの所謂陣笠議員せいねんじんがさぎぎんには、此種このしゆの人物じんぶつが多いやうであります、議場ぎじやうの眠氣醒ねんきせいしに、茶番狂言ちやはんきやうげんの餘興よけいを、擔任たんじんさせるより外ほかには、全然ぜんぜん使つかひやうのない厄介やくがいな代物しろものであります、ツカミ馬鹿ばかにして掛かれば、反嚙はんがくされるし、其それか言いつて、懶巧らんきやう扱あつかひをすれば、無暗むやみに増長ぞうちやうするものであります、此この如ごとく馬



鹿でも伶俐でもない、中ぶらりんの人間を、誰も平凡なりき、名稱を下すやうであります。これは全然平凡の意義を解さない者云はねばならない、元來平凡も非凡も、其間相去るこそ、寸を以てするこそ能はざるもので、時ありては平凡も非凡もなり、又時ありては平凡も平凡もなる事があるからであります。君失臣兮龍爲魚。權歸臣兮鼠變虎。斯の如く一變一化端倪すべからざるものであります。諸君……諸君は、稀代の非凡人西郷隆盛の弟に、従道あるを記憶せらる、であります。彼が状貌は頗る魁偉でありましたが、其言動を見れば、平々凡々一も社會の耳目を聳動すべきものはなかつたのであります。其れにも拘らず、彼は陸軍大臣となり、海軍大將となり大臣となり、果ては元帥となつて、正二位を辱ふするに至つたのであります。在職中勲業の大書特書に値ひすべきものはあ

りませんでした。が、陸軍大臣となれば、陸軍の軍政を制節し、海軍大臣となれば又海軍の艦政を料理して、些の遺算あるを見なかつたのであります。彼が大臣となつて議會に臨むや、議員の質問を受けても、呵々大笑、不得要領中に、問題を黙殺して、平然たるの態度は、平凡云ん乎、非凡も稱せん乎、一寸判断に苦しむ所であります。曾て彼が大同團結の主領となつて、東北遊説の途に上つた際も懇親會の席上大笑一番すれば、其硬軟を問はず、忽ち彼が膝下に拜伏して、一顧の恩に酬ひんとする者があつたのであります。此に至つて平凡も亦た非凡に優る、萬々なり云はねばなりません。桃李開東園。含笑誇白日。偶蒙東風榮。生此艷陽質。當時の伊藤たり大隈たる者、其れ之に庶幾哉である、嗚呼従道は平凡の好標本で、而も亦非凡兄隆盛の領域に達せるものであつたのであり

ます。

(二) 演 説 体

圖書出版業組合新年會に於て

諸君………毎年一月十五日に、我組合員一同が、此公會堂に會同して、互に新年を祝福致しまするのは、實に此上もない目出度事で、而も又愉快の至りでありませんか、斯る多數の御集會は、容易に見る事が出来ないのでありますから、私は此好機を逸せず、圖書出版に對する、卑見の大略を申上げて、諸君の御批判を煩したいのであります。

諸君………御互の商業も無論營利目的ではありまするが、其營利の方法が、大に

他と異なる点があるのでありますから、御互は身を高處に置いて、脚下を展望するに云ふ、氣魄を失つてはならないのであります、世間大小幾多の商業を通覽致しまするに、孰れも皆物質上の補給機關も言つたやうなもので、直接精神上に裨益を與ふる事は、少いかと思ふのであります、然るに御互の領分に屬する、書物の出版は、其内容の如何によりましては、世道人心に及す所の感化は、現在に未來に涉つて、絶大なものでありますから、其選擇の責任も亦た多大なりと、自覺せねばならないのであります、勿論娛樂目的の書籍のみを出版せられる人々は一々嚴密に其内容を点檢するの必要はありませんが、法規の罰するやうな、淫猥三昧に涉れるものは、如何に實行を第一の目的とするも、自家の業体に顧みて、多少參酌の必要があらうと思ふのであります、文權を掌るは、文部の當局であり

まするが、出版物によつて、讀書子の趣味を昂上せしめるのは、我々権内の事でありませば、此位愉快にして、且つ權威ある商業はあるまいと思ふのであります、然るに一旦の失敗に屏息して、自家の商業を呪ふやうな人がありますが、這は畢竟原稿其物の良否を、鑑識するの明がないからであります、原稿の内容に申分がなく、且つ出版時機を捕捉するの手腕がありますれば、恐らく此業をして、失敗を招くやうな事はない筈であります、大正も齡を重ねる己に十一となつたのでありますから、御互も年と共に、革新を企圖して、我出版界の黄金時代を出現するやう、充分奮勵致したいものであります、終に臨んで諸君の鶴壽を祝福致します。

### 銅鐵商組合忘年會の辭

諸君……今日の不景氣を以て、歐洲交戰當時の好景氣に比較致しますれば、殆んど隔世の感があるのであります、夫の廢物同然の古鐵釘の如きものすら、意外な高値を唱へた位でありましたから、再餘の材料で贏ち得た所の利益は、鮮なものではなかつたのであります、處が……平和克復と同時に、銅鐵の下落は眞に豫想の外でありまして、一時は心膽を寒からしむる程でありましたが、今日に至りましては、漸く平調に回復したやうでありますから、此先き大した變動はあるまいと思ふのであります、今日頻りに不景氣を啣つ人がありますが、之は好景氣の時を標準とするから、非常の差違が生ずる所以であります、若し世界大

戦以前に對照致しましたならば、今日の景氣は、左まで嘆聲を洩らす程の事はなからうと思ふのであります、總じて窮通は時の運でありますれば、目前の小利害に踞踏するここは、決して此活社會に處する所以ではありますまい、今一時の苦痛を忍びさへすれば、必ず近き將來に於て、愁眉を伸すここはある筈であります、何にして今年の如き不祥な年は、一日も早く送つて、更らに活氣ある新年を迎へたいものであります、之より開宴致しますから、萬望——諸君は二階の大廣間に、御移りを願ひたいのであります、之を今日の式辭と致します。

### 同窓生懇親會席上の辭

諸君………私共が一高在學當時の事を回顧致しますれば、實に今昔の感に堪へ

ないのであります、諸君の中には、才を以て勝つた者もあれば、智を以て勝つた人もありました、或は勇に或は膽に、殆んど濟々多士の觀があつたのでありますから、何ぞ云へば、忽ち議論風發の有様で、其意氣の軒昂なる事は、實に大したものでありました、其位でありましたから、孰れも皆功名手に唾して取るべしと云ふ、抱負があつたのであります、毎月末爲替が届くこゝ、いつも談話會の名義で、牛飲馬食會が催されたのであります、飛蓋急霰の後は、エンヤラーヤを論ふか、デツカンショーを唸るかして、一日の豪興を恣まゝにしたものであります、今日より之を觀れば、多少粗野亂暴の嫌ひがないでもありませんが、學生たるの本分を過まるやうな事は、斷じてなかつたのであります、爾來諸君は螢雪の辛苦空しからず、各自修養の各方面に向つて、既に成功の地歩を占めて、今や社會の

中堅人物なられましたのは、恃り母校の名譽なるのみならず、又私共一同の名譽であらうと思ふのであります、今日は學生の風紀が、漸く紊れまして、又昔日の氣魄がないやうでありますから、私共は先輩たるの責任を致しまして、此弊風を矯正せねばなるまいと思ふ、付きましては萬冗を排しても、時々演説會を開催して、大に士氣を鼓舞したいのであります、聊が感想を述べて、満場の諸君に、諮詢するのであります。

### 同縣人會席上に於て

諸君……或一部の人は、恁ふ云ふ事を申すのであります、同郷人會も、同縣人會も、故らに一地方に限局して、親睦を厚ふするのは、鎖國的偏狹の陋習で

あるから、全然之は撤廢して、自他の區別を忘れて、交際するがよい、何ぞ必ずしも細く狭く、自ら繭を結んで、交道を縮少するの必要があるか、成程四海皆兄弟云ふ、開放主義から申しますれば、此説も一應尤のやうではありまするが、一家には一家の家風のあるやうに、一郷一縣にも、其れく特殊的美風があるものでありますから、之は飽までも保存助長して、他の郷土の模範となるのは取りも直さず、風俗改善の一端なるのでありますから、他郷にあつて同郷同縣の人々を會合して、舊を語り新を談じて、益我郷國の美風を發揮する事は、寧ろ奨励するにも、撤廢の必要はないのであります、そこで私は本會の主意を擴張して、苟も同縣人である以上は、下級官吏にも、勞働階級にも出席を促して上下の緝睦を謀りたいものであります、さすれば一は國粹保存の精神にも適し、

一は郷土愛戀の意義にも適しやうかと思ふのであります、諸君にして御同感でありましたならば、是非次回より之を實行したいものであります、平生の持論を述べて、諸君の御批判を煩すのであります。

### (二) 講演体

#### 讀書の趣味

明の謝在杭は、未だ見ざるの山川を過ぎ、未だ讀まざるの書を讀む、殊に一段の興趣を覺ゆと言つて居りますが、讀書は其既讀の書たるに、未讀の書たるに拘らず、苟も偉人傑士の言行を書したものであれば、讀めば讀むほき、興趣を覺ふるものであります、例へば論語の淡々たる中に、情味の掬すべきものやら、聖

書の多角多面にして、處世の要諦なるべきものがあるやら、其他諸子百家の書一として愉感快感を覺へないものはありません、殊に讀書は時期によつて、快感の分量を異にするやうであります、會心の書を早晨朗讀するか、人籟已に定まる時に、古今名家の詩文集を、默讀するか致しますれば、普通の場合よりも、より多く詩思を助け文思を助くるに共に、一段の興趣が津々として湧いて來るやうであります、まして蕭々たる雨の降る日に、柴門深く鎖して、窓下に南華經を繙き讀み去り讀み來りて、一睡を思ふの時、巻を枕にして、華胥境裏の人となりまして、夢に莊周が胡蝶の痕を追ふやうな事は、讀書子ならではの、恐らく此間の情味を掬する事は出來ない筈であります、されば人として讀書の趣味ない者は、一生沙漠を旅行するやうなもので、到底綠陰深處水涓々の決味を喫する事は不可能で

あります。

(ち) 演 説 体

知事送別會の辭

諸君……私は前城野大阪府知事閣下の送別會幹事として、一寸御挨拶申上たいのであります、城野閣下が我大阪府知事として、御就任になりましたのは、今より五年以前の事で、任期の短かつたのは、誠に遺憾ではありまするが、此短期中に於ける、閣下の功績は、絶大なものであります、先づ其顯著なる者を挙げますれば、學政の刷新を始め致しまして、橋梁や道路の如き、交通の設備も、城野知事の御力によつて、完成致しましたのであります、一部の反對派は、無禮にも

土木知事の綽名を酬るたのでありまするが、我大阪の如き、兎角議論の多い所では、城野知事のやうな、英断の人でなくては、到底何事も遂行せられるものではありません、橋梁道路の二大工事でも、反對派の議論囂々たるにも關せず、府民全体の利益上より打算せる城野知事は、一々反對派の主張を排斥して、遂に所信を断行せられました膽識は、流石に良二千石の名聲を博せられた所以であります、今二三年も御留任下さる事が出来ますれば、更らにより多き功績を見るのであります、ましたが、這回御榮轉の故を以て、止むを得ず、御別れせねばならなくなりましたのは、公私二つながら、惜別の情に堪へないのであります、私共一同は、献芹の微衷に倣ひ、在職中の御功績の萬一に奉酬せんが爲めに、金時計一個、献上致しますれば、萬望——御受納に預りたいものであります、茲に一同を代表して

閣下の功績を感謝し、併せて惜別の意を表します。

### 中學校卒業の式辭

諸君………私は來賓一同を代表致しまして、諸君の卒業を祝福致すのであります。諸君は之より直ちに實業の方面に従事する人もありませう、又進んで高等専門の學校に、入學せんご準備する人もありませう、諸君が家庭の都合で、將來の方針は、色々に岐れる事でありませうが、只だ諸君が終始一貫、踰るべからざる二大要件があるのであります、それは何かご申しますれば、諸君を多年教育せられた所の諸先生の鴻恩を牢記して忘れない事ご、又一つには母校の体面を傷けないやう、言動共に細心の注意を拂ふ事でありませう、凡そ人間の行爲ご云ふものは、

微の間に正邪が現はれる者であります、体面を傷ける事を、何ごも思はないやうな不徳の人や、舊恩を忘れるやうな輕薄なものは、如何なる方面の事業に従事しても、天人與に與みしませんから、到底成功する者ではありません、近來輕佻風をなし、師弟の情誼が、淡々たるごご恰も水の如き有様でありますのは、實に慨嘆に堪へない事でありませう、諸君は斯る弊風に感染せずして、飽くまで穩健なる發展を遂げて、紳士的人物ごなつて貰ひたいのであります、聊か苦言を呈して今日の祝辭ご致します。

### 茶道會席上に於て

諸君………諸君は皆茶道の先達であります、門外漢の私が、何かごお話申上



た處で、諸君にあつては、要するに遼東の豕たるを免れませんから、私は少しく目先を換へまして、茶道の沿革を述べる事に致しませう。

喫茶養生記に、「茶は養生の仙藥なり、延齡の妙術なり、山谷之を生ずれば、其地神靈なり、人倫之を採れば、其人長命なり、天竺唐土同じく之を貴重す、我朝會て嗜愛す、古今奇特の仙藥なり」此文によつて見ますれば、昔は印度支那日本を通じて、日用の飲料に供したのではなく、専ら藥川に供したものであります、又鶴林玉露の中には、「茶は昏を滌ひ滯を雪ぐ、學を務め政を勤むるに於て、助けなくんばあらず」を見て居ります、醫術の未だ開けなかつた時でありますから、茶を以て救命の靈藥と誤信して居たのも、亦た無理からぬ事であり、東大寺要録にも、以上の事に似通つて居る事が書いてあります、又都名所圖繪なご

見まするに、面白い事が載せてあります、其一節を讀んで見ませう「村上天皇天曆五年、京師に疫癘流行し、死者算なし、空也上人、大に之を憐み、十一面觀世音菩薩の尊像を車に載せ、自ら浴中を曳き、尊像に供へたる點茶を、病者に與へたれば、病者直ちに平癒したり」尊像に供へました點茶で、病人が忽ち全快致した云ふ事は、些と受取難い話ではありますが、空也上人の偉大な人格に、傾倒致して居りました當時の信者共が、神經作用で快復したかも知れません、さて茶を日用の飲料に賞用するやうになりましたのは、足利義滿であります、永和年間に宇治の森、川下、朝日、祝、宇文字、上林なごの七個所に、茶園を設けまして、製茶事業を奨勵致しますと同時に、大に喫茶の効能を鼓吹致したので、天下は靡然として之を賞用する事になりました、足利八代將軍義政の代になりましたから

茶式云ふ事が、完全に定められたのであります、それから織田豊臣徳川の數時代を經まして、終には奢侈華美に流れて、茶道の本旨を失ふやうになつたのであります、古代にあつては、單に藥用として嗜好したものが、後世に至りましては一般の飲料となつたのであります、或は風流好事者の娛樂の用にもなり、或は英雄懐柔の料にも用ひられ、或は臣下の智鈍を鑒識するの材にも用ひられたのであります、茫漠たる問題を、短時間に演了する事は、到底不可能でありますから、先づ此位で壇を下る事に致します。

### 茶業組合頭取改選に付て

諸君………本日頭取の改選に付て、御集會を煩うしましたが、諸君は定刻以前に

一同御揃い下さいました、御熱心の段は、私共役員一同が、深く感謝する所であります、前頭取名和由藏君が、既往四年間に於ける、多大の功績に付きましては、諸君も充分御承認の事ご存じますれば、我々役員一同は、是非名和君を再選致したいのであります、諸君の思召は如何なものでありませうか、或一部の人は、名和君は兎角専斷獨行の癖があつて、組合の親睦を破壊するの憾みがあるから、今回は多年副頭取の地位にあられた、木野勇君を擧げて、組合の圓滿を謀りたい云ふ議論もありますが、私共は遺憾ながら此説には賛成が出来ないのであります、何ごなれば今日繁劇の要務を擔任して居る御互に對して、瑣屑の問題までも、組合會議を開催して、是非を衆議に諮るやうでは、自他共に時間の損失を見るのみならず、事によりては時機を逸するの憂ひがないとも限りませんか

ら、大抵の事件は、頭取の考へ一つで、ドシ／＼決行して貰ふのが、その位便利であるか知れないのであります、それを恰も自家の権利でも、侵害せらるるやう神経を傷めるのは、決して賢明なる行爲とは、思はれないのであります、併し意見は意見、手續は手續に、區別を立すばなりません、之より頭取の選舉に移る事に致しますれば、萬望——諸君は尤も冷靜にお考へ下さいまして、前頭取名和君に、御投票あらんことを希望するのであります。

### 筑前琵琶會に臨みて

諸君……諸君は、先づ琵琶てふ意義を了解して置く必要があらうと思ふのであります、字典に——琵琶は本胡中より出づ、馬上鼓する所、手を推すを批云ひ

手を引くを把云ふ』とあります、四絃四柱で抱いて撥にて弾じた事は、今も昔しも變りはないやうであります、我國では殿上人が愛玩致したもので、平家時代には随分流行致したやうであります、當時戦亂相繼いだ故か、其聲譜云ふものが、一つも傳はつて居りませんから、ごんな風に彈奏して居たか、其道の人に尋ねても、一向要領を得ないのであります、何にしろ平家時代の琵琶は、例の物語流の文章に、多少の抑揚をつけて、謠つたものに見えます、平家琵琶は、平家の没落と共に、殆んご形を隠してしまいました、それでも萬一を其間に髣髴し得る肥後琵琶が現れまして、可なり流行致したものであります、惜し事には、盲人共が鯛口の爲めに、人の門戸に立つて、彈奏致しましたから、自然上流社會から、之を擯斥するやうになりました、筑前琵琶の前身とも云ふべき、筑紫琵琶も、多

少流行致しましたが、終に肥後琵琶同様の運命に了つたものであります、明治の  
 央に至りまして、橘流に智丈が出来ますし、鶴崎流に賢丈が現はれ、吉田流に武  
 子が出現致しまして、各々一流を立て、から、筑前琵琶の面目は一變せられ、其  
 聲價も亦た大に高まつた事は、諸君が已に御熟知の事でありませう、三派の長短得  
 失に付きまして、私は今茲に兎角の批評を下すことは敢て致しませんが、折角  
 流行の端緒を啓いた筑前琵琶が、近來著しく衰頽に傾きましたのは、斯道の爲  
 め、實に痛嘆に堪へないのであります、其原因に付ては、私は幾分研究致した  
 事もあります、此席上に於てお話しすることは、忍びない點もありますから、今  
 日は單に將來の希望を述べざる事に、留めて置く積りであります、今日かく多數お  
 集りの人々の中には、忌憚なく申しますれば、琵琶を以て渡世の方便、即ち餬口

の料に供して居る人もありませう、又單に娛樂の爲めに没頭して居る方もありま  
 せう、孰れを問はず、琵琶の研究、琵琶の嗜好者であられる事は申す迄もない  
 されば琵琶に上す所の歌曲に對して、終始十二分の注意がなくてはならないので  
 あります、歌曲の精神は何であるか云へば、忠孝節義の鼓吹であります、そこ  
 で先づ一番に、琵琶を學ぶ人は、其歌曲の意義を了解して、彈奏するに臨んでは  
 己れ自ら歌曲の人心、融化して行かねばなりません、同化して行かねばませ  
 ん、只だ流しとか抑揚とかの末のみに走りて、琵琶第一の生命を没却するやうで  
 は、教へても甲斐がなく、學んでも亦た甲斐はないのである、又藝術品行は  
 別々のやうに考へて居る人もありますが、決してそんな者ではない、藝術の昂上  
 を希ふならば、品行も亦た之に伴ふて、昂上して行かねばなりません、學校の先

生計りが、教育者ではない、諸君の如く忠孝節義の事蹟を、琵琶に上して演奏する人は、取りも直さず、社會教育者の一員であります、若し諸君が自家の品性を損ぜぬやう、琵琶の權威を傷けぬやう、平生細心の注意を拂はれたなれば、世人が諸君に對する尊敬の程度も、決して今日の比ではあるまいと思ふ、果して然らば今日の衰頹を挽回する事は、實に易々たるものであります、琵琶の盛衰如何は一にかゝりて諸君の双肩にあること云つてもよい、さうか諸君は此心を以て心こせられて、益々琵琶の昂上發展に、盡瘁せられんことを、切望して止まないのであります。

(ち) 講演 演 体

長壽の得失

人間も四十足らずで、死んでこそ、始めて死榮わがするに、短命を鼓吹する人もあるが又其半面には、「冥土から今にも迎ひが来たならば九十九までは留守に断れ」に、長命を獎勵する者もあります、長壽の得失は、理窟の付けやうによつては、孰れも決定は出来ませんが、古人のやうに、朝に道を聴いて夕に死も可なりでは、餘りに人生は飽氣がない、又生は奇なり死は歸なり、禪僧もさきに澄し返つて見た處で、何の難有味もないやうであります、要するに人間も四十五十にして、名を爲さない位でありますれば、いつまでも製糞器になつて、生存せ

んよりは、寧ろ一日も早く冥土に退轉する方が、自他の爲めかと思ふのであります。しかし何か社會の爲めに、事功を貽さんが爲めに、長壽を祈る人があることすれば、殆んど空席のない、娑婆の公會堂でも、割愛して席を譲つてやらねばなりません。我國の長命者にして、偉大な事業を、後世に貽した人々を、只今讀み上げますから、心ある人は、ノートに御書き留めを願ひます。

神武天皇	百二十歳	孝昭天皇	百十四歳
孝安天皇	百廿七歳	孝靈天皇	百廿八歳
孝元天皇	百十六歳	開化天皇	百十五歳
崇神天皇	百十九歳	垂仁天皇	百三十九歳
景行天皇	百四十三歳	成務天皇	百七歳

武内宿彌	三百歳	志賀瑞彌	百六十歳
長田徳本	百十八歳	天海僧正	百十六歳

以上の人々は、或は文により或は武により、皆赫赫たる事功を建てたのであります。すから、其長命に對しては、讚美するの價値があらうと思ふのであります。夫の支那の梁顥、胡光謙、陳修等の晩學者が、八十歳前後で博士試験に及第した事や我朝の小野道風が六十にして書道に志を立たた事なごも、尤も賞讃に値ひするのであります。斯くの如く長命を保つて、事業に成功した人々や、晩學にして名聲を轟かした面々の行爲を、よくよく調べて見ますと、別に若返り法を研究した譯でもありません、又不斷何首烏なんかを服用したのでもありません、畢竟するに、自信、克己、熱心の三拍子が揃つた爲めに、甘く社會の舞臺に活躍する事が

出来たのであります、今の所謂失戀悶々の悲觀黨や、生活難の呼號者なんかは、奮發一番、古人に肖かつては如何である、聊か感ずる所があつて、長壽の得失を述べたのであります。

(り) 演 説 体

旅館開業の式辭

諸君……一寸御挨拶申上げます、諸君は此寒い處、お厭いもなく、態々御光臨下さいました御厚意は、實に感激の至であります、何の用意も御座いませませんが、さうか御悠つくり召上つて戴きたいのであります、序に今回私が旅館を開業するに至りました動機を、將來の考へを申上げて、諸君の御示教を仰ぎたいと思ふ

私は御承知の如く、材木商が本業で、其買入や切出しの爲めに、大概旅館生活なつて来たものであります、近來は都鄙の別なく、物質上の改善は、大に見るべきものがありますが、精神上の變化即ち輕薄に傾いた事は、何人も一驚を喫するのであります、今其一例を挙げますれば、番頭や女中さもは、茶代の多少を、祝儀の厚薄如何によつては、部屋は勿論寢具食器の類に至るまで、截然たる區別を立てまするのは、實に不愉快此上もない事であり、普通一泊の旅籠料は、大概三圓以上五圓以下であります、斯くの如く不廉なる旅籠料を徴收しながら、茶代が少いから、祝儀が薄いからとて、番頭や女中の手加減一つで、待遇上に影響を及す云ふのは、あり得べからざる事ではありますが、事實之を實行して憚らざるには、驚かざるを得ないのであります、そも斯る弊因によつて起る所以

は、何であるかご申しますれば、いづれの旅館も、番頭にも女中にも、給料は二錢も支給せぬ事になつて居りますから、彼等は貰ひ即ち祝儀に有付んが爲めに、あらゆる手段を弄するやうになりますのは、自然の趨勢であります。此間の消息を解さない、鷹悠な客人は、終に彼等の虐待を受ける事になるのである、番頭女中の小慧なる、眞に悪むべしではあります。要するに主人が無給制度を改めなから、此弊風を一掃して、範を一般の同業者に示す覺悟で、本業を開始した次第であります。されば番頭や女中にも、其勞逸の如何によつて、給料を支拂ふ事に定めて居ります。旅籠料は甲乙なしの三圓平均で、茶代祝儀は一切申受けないの

であります。特に廣間を望まる、客人には、間料にして幾分申受くる筈でありますから、部屋に付ても苦情の起る憂はなからうぢやありませんか、私は之によつて衣食しやう云ふのでありませんから、缺損の立たない限りは、食物にも充分注意を拂ふ筈であります。御交際のお廣い諸君は、御知人の方々に、此意味を御吹聴下さいまして、本業の發展に御添心下さるやう、切に御願ひ申上げたのであります。イヤ御退屈さま。

### 良縁を祝するの辭

生活易の時代は、既に通り越して、生活難の時代になりました結果、男婚女嫁、二つながら段々遅れ勝ちになるやうであります。之は泰西文明の系統を取入れた餘



弊で、今更脱却するここは不可能だらうと思ふのであります、西洋では男子が貴嬢を愛します云へば、女子はハアそうですか、付きましては御身の財産は何程あります、又御身に萬一不幸があつた場合に、私は餠口に窮するやうな事はありませんか、其保証が出来ますならば、結婚も敢て辭する所でない云つたやうな按排で、實に現金なものであります、日本は全然之と異りまして、男子が貴嬢を愛します云へば、少し考への足りない娘でありますれば、三十五圓取のお巡りさんにでも、直ちに一身を托するのであります、で……結婚早々生活難の爲めに、出るの入るの、いつも夫婦喧嘩の絶間がないのであります、這間御結婚なさいました、金山銀藏君、庫持富子嬢は、大阪隨一の素封家でありますから生活難が怎麼ものやら、怎麼な事が不幸やら、まるで金錢上に御心配のない方々

で、而も智徳も氣性も、殆んど同一云つてもよい位でありますから、御夫婦間の和合は、毫も疑ふの餘地はないのであります、謹んで祝詞を呈して、御夫婦の萬歳を祈ります。

### 理髮業組合常集會に臨みて

諸君……職業に貴賤なし云ふのは、實に千古の金言でありまして、上は大臣宰相より、下は車夫馬丁に至るまで、或は心を勞し或は力を勞して、一身一家を扶持して行く事は、毫も異なる處はないのであります、大臣の職は貴い、挽車の業は賤い云ふのは、收入から割出したものか、勞逸の点から申すものか、テンで寸尺の合はない話であります、總じて人間は自己の職業に對しては、天分であ

る天職である云ふ、一大抱負を持つて居らねばならないのである、此抱負さへあれば、不平や不満なごの起るべき筈はないのであります、諸君の中には、床屋せみやてふ名稱を、非常に嫌悪する人があるやうであります、それはモー昔の話で、今日こんにちのやうに生理衛生は勿論、技術其他に至るまで、充分の修養を重ねて、理髮ア修業士の稱號を博する者に向つては、狂人ならざる限りは、誰か床屋なごの名稱を下す者がありませう、自己の品性が低く、而も技術が拙劣で、何等進歩の認むべき者がないならば、依然たる床屋でありますから、輕侮を受けても致方はありません、古人が「自ら侮りて人之を侮る」を申したのは、慥かに一面の眞理であります、自ら床屋を侮りて、自己の天職の尊い事を知らない位の人が、什麼して世人から尊敬を受ける事が出来ませう、私は諸君の驥尾きびに附して、益々本組

合の基礎を堅めると同時に、同業者の品性を高めたいと思ふのであります、聊か卑見を吐露して、諸君の御意向を窺ふ次第であります。

(り) 講演体  
利の説

世人が利慾一点張の者を見れば、支那人のやうだ、評を下すやうであります、支那人は果してさやうに、利を好み利に趨るものでありませうか、大學の篇末には、其れ國は利を以て利りせせず、義を以て利りす云ふこあります、又孟子の開卷第一にも、王何ぞ必ずしも利り云はんこ、利の語るべからざる事を喝破してあります、論語の中にも利によりて行へば怨み多しこか、孔子は罕に利を言ふこか

チラボラ利を戒めた事が散見して居るのであります、此等につて思索致して見ますれば、古來支那人は我利々々亡者であつた爲めに、聖賢が其弊習を匡救しやうと云ふので、痛く利を戒めたものと思ふのであります、聖賢も公利や純利までも、嫌悪した譯でないことは言ふ迄もありません、誰でも自己の腦漿を絞るか自己の勢力を費すかして、當然の利益を享有するに對しては、無論他の容喙を許すべきものではありません、一人人間が此世に生存するには、魚類の水に於けるが如く、分秒の時間とて、利を離れては生活し得られる者ではありません、されば司馬遷の所謂天下擾々爲利來、天下擾々爲利去で、一去一來、皆利の爲めでない事はないのであります、夫の軍人が彈丸雨注の間を侵して、猛進するもの露骨に言へば利の爲である事は、勳功行賞の際に、勳等の高下、賞金の多少で、

忽ち沙上の偶語を見るに徴しても、明白な事であり、恃り軍人のみならず、君子而を粧ふ學者、佛顔を作る坊主、誰も個も皆利の爲めに起ち、利の爲めに趨らない者はありますまい、ざるを勿主義の倫理や、煎じ乾らしの宗教や、法律の力なんかで、之を制止せんとするのは、恰も決河の水勢に逆ふて、之を壅塞せんとするの一般、多さに其量を知らざる者と言はねばならない、無理に公共の公徳とかの金箔を振りかけて、好利の生地を糊塗せんとするから、人間が益々狡猾になつて、社會の指目を避け、法律の細網を潜る事が上手なるのであります、苟も他の權利を侵さない範圍に於ては、大に我身を利して然る後に、他を救ふも悪くはないのであります、後腹の痛むやうな慈善は、却て爲ない方がよいのである、阿は兎も角世人一般が、理窟の末に趨らず、只だ利之れ得ん、満身の

力を盡しましたならば、亡國的生活難の悲鳴を聞く事もなくなるであらう、利、利、利、利、利の吾利我利は、強ちに香物を嚙る時ばかりの音ぢやありません、人間の胴体を敲けば、いつも此音はするものであります。

(ぬ) 演 説 体

塗物商臨時總會に臨みて

今日臨時總會を開くに至りました事は、會章によつて最早御了承の事存じます、私が今茲に仰々敷申上るまでも御座りませんが、我々人間は自己の權利を主張するに同時に、他人の權利を尊重するものも、個人道德の要諦であらう存じます、殊に多年慘澹たる苦心工夫を凝らして、發明したる所の商品を、勝手氣儘に

模造して、其商權を侵害するに云ふ事は、不義不信之より大なる者はありません、處で我々組合の發明に係る、耐久不變の梨地塗が、其精巧に於て、其價格に於て、頗る上乘低廉にして、而も賣行の多大なるを羨み、某々組合員が、盛んに模造品を製作して、我々の商權を侵害するのみならず、粗製濫造の極、終に其聲價までも傷けつゝあるを見ましては、我々組合員は如何に雅量を以て之を迎んじても、最早忍ぶ事は出来ないのであります、よつて諸君と共に、十分協議を遂げて、相當の辯護士に托して、某々組合に向つて、商權侵害の戦ひを挑んと思ふのであります、証據物件其他一切の材料は、只今一々御覽に入れる事に致しますから、本會議に於て速に一決して、戦闘準備に着手したいものであります、之を以て開會の辭に致します。

## 縫箔業組合協議會に於て

諸君……我縫箔業組合頭取の任期が、満了に相成りましたので、不肖私の如き者を、其後任に御推舉下さいました御厚意は、實に感謝に堪へない次第であります。但し、到底其任務を完ふする事は、出来兼ねますから、常任幹事まで、就任の事は再三御辭退申上げましたけれども、強ゐるの御勸告でありますから、御受けは致したものの、其責任の重大なるを思へば、恐懼措く所を知らざる位であります。幸ひに諸君の御援助を得まして、多少なりとも、頭取の任務を盡す事が出来れば、本懐の至りであります。さて今日の協議事項は、縫箔意匠の變更工賃値上の二問題であります。さうか充分御審議の程を願ふのであります。先は

就任の披露を兼ねて、茲に開會を宣言致します。

## (る) 演 説 体

## 留別會の席上にて

諸君……昨夜私の爲めに、盛大なる送別會を御開き下さいました諸君の御厚意は、實に感激の至に堪へないのであります。私が乏しきを承けて、本縣の知事となり、在職五年の間、大過なきを得ましたのも、一に諸君御加護の賜ものである事は、申すまでもありません。私は譬へ本縣を去りましても、力の及ぶ限りは、本縣の爲めに盡瘁致す積りであります。されば諸君は菲才私の如き者でも、御見捨てなく、今後以前のやうに、御交際が願ひたい、幸ひ赴任の地は、諸君が

御上京の折には、必ず御通過なさる所でありましたれば、往きか復りには、是非御立寄下さるやう、今から御願申上げて置きます、私は明日の一番汽車で出發致しますから、遺憾ながら告別拜趨の禮を缺ぎますれば、其邊は悪しからず、思召下さるやう御願申します、何の用意もありませんが、今夕は充分歡を盡して戴いたのであります、昨夜の御禮かたく一寸御挨拶を……。

(をお) 演 説 体

帯解祝の式辭

今日は初子嬢の帯解の御祝云ふので、御案内下さいましたから、御邪魔に罷出ましたのであります、初子嬢が孤々の聲を擧げられましたのは、ツイ先達而のや

うであります、最早七年前の事かと思ひますれば、今更ながら光陰の迅速なるには、一驚を喫せずには居られないのであります、初子嬢は愈々此四月の新學期から、小學へ御入學の事でありませうが、お母さんそつくりのお顔立で、却々御利發で在らつしやるから、定めし御成績もよい事であらうと、今からお喜び申上げて置きたいのであります、近來泰西の風俗に倣つて、五節句ミか帯解祝ミかは漸々廢止する向きもありませんが、愛兒の前途を祝福する、一生一度の事でありましたれば、寧ろ盛んにすることも、之を廢止するやうな事は、好ましくぬ事であり、御主人古木守君は、時流に従はれず、かくも盛大に此式を御舉行になり、するのには、頗る私の考ミ一致するのであります、折角の御饗應でありますから、之から遠慮なく頂戴致す積であります、皆様に代りまして、私より御祝を申上げ

た次第であります。

### 桶屋同業組合設置に付て

諸君……今日御來會を煩しました所以は、例の組合創設の一件であります、我々の業務は他の職業と異つて、別に手間賃の競争がある云ふでもなし、又得意争ひをするでもありませんから、組合の必要はない云ふ議論もありますが、我々組合の目的は、何も競争を取締つたり、得意争ひを防ぐ爲めの機關にしやう云ふのぢやありません、御互が都會生活を營んで居る以上は、いつ何時火災水害、其他不意の出來事に、遭遇するか判りません、さる場合に臨んで、平生互に相助け相救ふの道を講じて置けば、御互は心配なく其業に就て居る事が出來ます。

ですから無事の日に方りて、ちやんこ組合を設けて置きました、毎月多少の金を積み立て、之を有事の時に、善用したならば、ごの位便利か判りません、此意味からして、諸君にお集りを願つて、御相談申上げる譯であります、諸君も我々の意向をよく御汲み取りになりました、成立するやう力を添て下さるなれば、實に本懐の至りであります。

### 音樂會の席上にて

古書に——吁我れ磬を拊ち磬を搏てば、百獸率ゐて舞ふ云ふ位でありますからまして人間として音樂を好まない事はない筈であります、夫の勞働者が錢湯の中で、口三味線につれて、義太夫を唸りまするも、田夫野人が田圃の間に、土塊を

撃ちつゝ、端唄を誦ひまするも、皆音楽趣味の發露と見なければならぬのであります。されば斯る状態を目撃致しました英國人が、日本人は皆詩人なりと評しましたのは、大に當れり云はねばなりません、しかし其人の心術が端正でありませんければ、音楽の精神に合致する事は難いものであります、苟も心術正しからずして、鐘鼓を打鳴らしたり、蕭笛を吹奏したり、致しましても、古人の所謂鐘鼓を云はんやの嘆聲を洩らさずには居られなくなるものであります、今日茲にお集りの令嬢令夫人の方々は、皆上流の家庭に御成長なまつて、其お心立もしみやかで在らつしやるのでありますから、音楽に現はるゝ聲調や音響も、均しく閑雅優美でありますれば、頗る音楽の精神に適ふたものと信するのであります、徒らに聲音の末に趨り、手先の技巧を弄するを以て、音楽なりと速了致しましたな

らば、寄亭藝人に毫も異なる所はないのであります、私が申上げました事は、稍理窟に傾いたやうであります、音楽の主意に於ては、決して差はない筈であります、餘りお話が長くなりましたは、あこの辯士のお妨げに相成りまするから、私は之で壇を下る事に致します。

### (わ) 演 説 体

#### 綿打業組合工賃値上協議會に於て

人間の職業は、殆んど千差萬別の觀がありますが、分類法によつて之が區別を立てますれば、さまで複雑したものではありません、恃り千職萬業の間に、尤も異色を放つて居ります者は、我々の職業に係る綿打、蛇取位であります、蛇取



が霜枯頃から多忙を極めまするやう、我々の職業も、秋風如水來云ふ時より仕事は激増するのであります、春夏の交は、蛇が威勢よくのたくり廻る爲めに、却々捕捉する事が出来ませんから、蛇取も止むを得ず宰予を學んで居るのであります、我々も春から夏にかけては、綿入の必要がありませんので、仕事は甚だ閑散で、先づ以て喰込みの方であります、しかし廣い都會の地でも、同業者の数が蛇取同様至つて少数で、競争云ふものがありませんから、割合に高い賃銀が取れますので、春夏の喰込にも、左まで閉口する事はないのであります、蛇取てふ特種の營業には、税金の賦課がありませんが、我々のそれには、減法高率の税金が賦課せられるのでありますから、最早既往の工賃にては、生活上甚だ困難を感ずる次第でありますれば、此際工賃の二割上を執行致したいものであります、

御賛成の方々は起立して戴きたいものであります、満場既に總起立でありますれば、明日より五日間新聞に廣告して、天下に發表する事に致します。

### 和歌會に臨みて

諸君……歌道に付きましては、既に幾多の先賢が、種々の著書によつて、説き盡し述べ盡して居りますから、私は娛樂的に研究しやう云ふ諸君に、聊か卑見の一端をお話致して見ませう、詩を作るに韻字平仄を知らねばならないやうに、歌を詠むにも亦た氏爾遠波の心得がなくてはならないのであります、近來古人の格式に頓着なく、無暗に文字を並べて、獨りよがりをする人もありますが、之は決して褒めた事ではありません、只だ世の歌學者のやうに、やれ冷泉流ミか、定

家派かはいに拘泥こうでいして、思想しそつまでも古臭ふるくさく眞似まねること云ふ事は、斷然だんぜん排斥はいし致いたしたいものであります、優柔ゆうじゆう不斷ふだんを以て、高尚こうせうなりこと心得こころえて居た僻見へきけんは、最早もはや舊時きゅうじの夢ゆめである以上いぜう、御互おたがひはなるべく活社くわつしゃ會かいに接觸せつしよくした、活問題くわつもんだいを捕とらへて、之これを三十一文さんじゅういちもん字じに現あらはして見みたいのであります、開會かいかいに先まつて、一寸いちゆん一言いちごん申ま上げて、誨おしを諸君しよくんに乞こふのであります。

(わ) 講 演 体

ワイ、エム、シー、エー

基督教キリストけうせい青年會ねんかいが、人智じんちの啓發けいはつに貢獻こうけんした事は、實じつに多大ただいなものであります、婦人ふじん會かいを起おこして婦人ふじんの自覺じけつを促うながしたるが如ごとき、語學會こがくかいを設たけて英語えいごの普及ふきやくを謀はかりたる

が如ごときは、其尤そのもつとも顯著けんちやくなるものであります、更さらに鰥寡くわんくわ孤獨こどくの扶養ふやうに力ちからを致いたし、無職むしよく失業者しつげふしやの爲ために、餬口ここうの道みちを授おづけたるが如ごとき、博愛はくあい主義しゆぎの實行じつこうには、何人なんひとも亦またた感心かんしんせない者ものはありますまい、曩むかしきに佛教徒ぶつてうも、之これに刺戟しきげきせられて、佛教青ぶつてうせい年會ねんかいを設たけて、社しゃ會かい事業じしやうや慈善じぜん事業じしやうに、手てを染そめて見みましたが、基督教徒キリストけうせいのやうな獻身けんしん的てき觀念くわんねんの缺如けつじよせるが爲ためか、何等なんら事功じこうの認みむべきものがないやうであります、近來きんらい又在また在郷ざいけう青年團ねんだん、在郷軍人團ざいけうぐんじんだん等の團結だんけつが、日本國にほんこく中之なかの盛況せいけいを呈ていし來きたつたのであります、其活動そのくわつどうの方面はうめんが甚はなはだ狭せまいのは、眞まことに遺憾いかなんの至いたりであり、ます、彼等かれらは時折ときとき殺人犯ころしじんはんが山中さんちゆうに遁にげ込んだり致いたしますること、恰あたもよい仕事しごとに有あり付ついたかの按排あんはいで、いつも警察けいさつの手先てのまになつて、犯人はんじんの搜索さうさくに忠勤ちゆうきんを抽ひくするのであります、又軍人團またぐんじんだん平時へいじの任務にんむは、地震ちしん洪水こうすい火事くわじ喧嘩けんか位の防禦ぼうえい鎮撫ちんぷで、いざ有事ゆうじ

の時が、忠君愛國の旗を押立て、軍閥の願使の儘に、盲從盲動すべく作られたやうであります、之れでは諸君は何等自身に裨益する所はなく、單に軍閥の走狗となつた形ではありませんか、一体忠君か愛國か云ふのは、主我の觀念を打忘れた、獻身的の發動でないならば、支那の傭兵に一般、いざ云ふ場合には、何の役にも立つものではありません、然るに底事ぞ、夫の上官の意を迎合するに敏なる、市長郡長町長村長の徒輩は、妄に諸君を狩り集めて、帳簿面上、忠君愛國の多きを装ふて、詔諛の限を盡して居るのであります、斯る材料に供せられつゝあることを知らず、惟だ命是れ奉ずるのは、餘りに自覺のない行爲ではありませんまいか、もし諸君にして地震洪水火事喧嘩や、殺人犯の逮捕に手傳ふ時間がある位なれば、基督教青年會に倣つて、社會事業に盡瘁しては如何であります、

地震洪水の天災は兎も角、火事喧嘩や殺人犯の逮捕は、消防夫や巡查の役目で、敢て諸君がお節介の必要はあるまいと思ふのであります、盲從盲動の二つは、我身を刺し我肉を削るも同様、聽ては自滅を招くの基に御承知なさらねばならないのであります。

### (か) 演 説 体

#### 貸座敷組合臨時會開催の辭

諸君……今日臨時會を開くに至りました理由を、簡単に申上る事に致します、一昨年の如く好景氣の折は、多少税金其他の掛りものが殖へたからきて、敢て苦痛を感じる事はないのであります、近頃のやうな不景氣では、税金は愚ろか、

一家の生活にも不安を感じる位でありますれば、之に對應する所の方法を講ずる事は、御互當面の急務であらうと思ふのであります、差寄り私共の思付を申上げますれば、先づ遊興税の撤廢、税金の減額を嘆願して、今少しく負担を軽くもするに同時に、身揚代や臺の物に對しても、二割位の値下を實行致しましたならば、復た必ず千客萬來の盛況を見るだらうと信ずるのであります、今日の如く過重の税金を納入しては、唯だく自滅を招くのみでありますから、委員數名を選挙して、一面縣當局に陳情し、又一面には警察署や稅務局に對して、之が交渉を開始する事に致したいものであります、唯々諾々惟だ命是れ從ふばかりが、我々の能事でもありませんまいから、此處は一つ本腰を入れて、我々の主張を貫徹する事に、努力したいのであります、諸君にして御異存がありませんならば、直ち

に委員の選挙に移る事に致しては如何でありませうか、開會の御挨拶かたく一寸御相談申上る次第であります。

### 瓦斯點燈料値下運動に付て

獨占的の事業を經營する者は、其個人たるを法人たるを問はず、往々横暴に流れ易いものであります、就中瓦斯會社の如きは、近來需用者の激増を奇貨とし、設備費に藉口して、近々一燈に對して五錢宛の値上を斷行する所であり、實に奇怪千萬言はねばなりません、需用者が豫定數に満たない時か、乃至は石炭の騰貴した場合かかなれば、値上するものも亦た止むを得ない譯であります、需用者は遙かに豫定數を超過し、石炭は約二割以上の暴落を來した今日に、一燈

に付五錢宛の値上を強るるなごこは、如何に營利事業は申しながら、餘りに貪婪飽きなきの所爲云はねばなりません、よつて我々市民一同は、會社に對して値下の要求を試みまして、萬一之を容れなかつた際には、警ひ消燈の不幸を見るも、飽くまで我々の主張を貫徹するやう、運動を繼續して、最後の勝利を得たいものであります、之より火野光博士が、瓦斯に付て詳細なるお話がある筈でありますから、ごうか御靜聽を願ひます、私は開會の御挨拶だけに留めて置きます。

### 貸座敷組合會に於て

諸君……我々同業者間の問題になつて居る、娼妓優待案なる者は、人権上から

申せば、當然解決せねばならない事ではありますが、營業上から打算する時は、此物價騰貴の折柄、却々實行を見るこゝは難いのであります、勿論優待云つても、飲食物の方面にのみ、意義が含まれて居る譯ではありませんが、娼妓等の尤も希望する所のものは、矢張日常の飲食物でありますれば、多少なりと彼等を慰安するに足るだけの、方策を立てずばなるまいと思ひます、損失をも願みず、優遇する云ふ事は、到底出來ないのであります、一番多く客に接します、日曜日だけでも、責めては二三の副食物を與へたならば、健康上にも好結果を及す計りでなく、彼等こゝも樓主たる我々を徳とするに相違ないのであります、左様致しますれば、必ず幾分精神的の昂上も見られて、是までの如く客に對して食物の要請をなすやうな、不作法の事もあるまいと思ひます、遊廓の状態に通

じない人は、一週間一夜位は、休養を與へて外出さしてもよいではないか云ふ人もありますが、之は取締上且つは經濟上、到底出来ない相談であります、貸座敷業の如き多大の經費を要し、而も榮枯盛衰の甚しいものは、却々素人の考へるやうに行くものではありません、が………「彼も亦た人の子なり」云ふ、義侠も同情を以て、今後は副食物に二三種を加へる事に一決したいものであります、諸君の御考へは如何でありますか、不肖を願みず私より御相談申上る譯であります。

### 掛賣廢止同盟會に於て

一定の期間を定めて、商品を融通する事は、供給者は商品の新陳代謝を謀る利便

があり、需用者は常に現金を用意するの必要がないから、双方共に便利な譯であります、近頃の如く掛倒が多くては、資本の減少を見るばかりで、逆も舊慣を續行する事は、不可能なつたのであります、されば此際我々組合は、一切掛賣を廢止する事に致したいのであります、勿論多年取引を續行して、互に氣心も判りて居ります得意先に對して、今俄かに掛賣を斷る云ふのは、情に於ては忍びない点もありますが、段々世間の生活は困難なるばかりで、月給生活の人々は如何に支拂を怠るまいと致しても、収入の少ない割合に、物價は下らないのでありますから、勢ひ滞り勝ちになるのであります、之が順々に重なりますれば、自然金高は殖ゆる一方で、如何に矢の催促を試みても、出来ないものは到底出来る筈はないのであります、さらば裁判でも仰いで、有体動産の幾分を差押へた處で

費用の半額にも満るものではありません、殊に差押するまでには、幾度もなく裁判所に、顔を晒さねばならないのであります、寸時の閑もない御互には、到底恧んな事に關係して居られるものでもありませんから、繰り返して申し上げますが情實さか氣の毒さか、餘計な心配は無用にして、是非組合一同は、掛賣を廢止する事に、一決致したいものであります、得意欲しさに、此同盟會に参加せないやうな人が、萬一あると致しますれば、直ちに除名して商取引の拒絶を斷行する事も決定して置きたいものであります。

### 孝子表彰式の辭

世間讚美の標的となりまする、孝子若くは孝女は、多くは貧賤の家に人となつた

もので、大抵病床に呻吟しつゝある父母に、よく孝養を盡しまする、奇特の点があるもので、其名が噴々世上に聞ゆる所以であります、子こし親の病を看護する事は、當然ではあります、斯る涙の孝行のみを賞して、力の孝行を賞揚せないのは、甚だ片手落こ云はねばなりません、力の孝行は申すまでもなく、名を立て、父母を顯はす事であり、病床の父母を養ふ事も大切ではありますが、父母を顯はすの孝行は、猶更大切であります、道野達徳君は、年齒未だ成童に達せずして、斬新なる飛行機の摸型を發明して、父母の名まで顯されました事は、古の孝子傳中にも、絶へて見ざる所の事であり、大に表彰に値すべきものであります、今日此破格の表彰式に臨んで、感慨の餘り、敢て一言を述べて式辭に代へます。

## 紙商組合協議會に於て

諸君……近來物價の騰貴は、實に驚くべきものでありますが、恃り我が紙商の  
 みは、華客平生の愛顧を重んじて、多少の損毛も忍び、現状維持の態度を守つて  
 居りましたが、製造元より勞銀其他の昂騰によりまして、頻りに値上の相談を持  
 込まれまするので、其邊の事ごも篤ご御協議を遂げたい爲め、今日茲にお集りを願  
 つた所以であります、一体日用品の騰貴は、中流以下の家庭では、實に大打撃で  
 ありますが、刻下の大勢は又如何にもするこゝは出来ません、此際止むを得ず、  
 二割方の値上を斷行したいと思ひますが、諸君の御意向は如何でありますか、御  
 異存がないとすれば、來月一日より愈々實行する事に致します、組合規約第何條

によりまして、私より各位の御意見を徴するのであります。

## 開店披露の祝辭

大井悟道君は、是まで文學を以て世に立つた人でありまして、近頃大に感じられる  
 事がありまして、斷然筆を投じて、牙籌を執られる事となつたのであります、文  
 學と商業とは、大分懸け隔つて居るのであります、大井君の如き、才氣煥發の  
 人は、之くこして可ならざるはなしでありますから、必ず成功せられる事と信ず  
 るのであります、まして商業とは言へ、文學とは殆んど姉妹關係のある、書籍商  
 でありますから、其選擇眼の尋常ならざる事に於ても、普通商人に勝る強味があ  
 りますれば、滿架の書籍も、皆讀者を裨益する有用なものでないものはありませ



ん、此点からしても、購客源々、店頭市を爲すの盛觀を呈する事は、豫想に難からずと思ふのであります、謹んで蕪辭を呈して、大井君が將來の大成功を祝します。

(か) 講演 体  
開 拓 事 業

諸君……土地を開拓するに云ふ事は、愉快な事業ではありませんが、又却々困難なものであります、そこで成るべくは難きを避けて、易きに就かうに致しますので、未だ我國起業家の力では、大々的の富源を開いた話は聴ないやうであります、近頃南洋の開拓に、随分着眼する人があるやうであります、勿論南洋を開拓する

事も、決して悪い事ではありません、充分收利の見込みがありさへすれば、ドシ／＼行つて貰ひたいのであります、私の考へに致しましては、先づ足下の方から開いて、然る後に他方面に及したいのであります、足下の開拓が、南洋に比して利益がないか、或は産物其物が、南洋のそれに及ばぬか云ふのなら、其れは致し方ない話であります、投資少くして收利多いとすれば、先づ足下から開くべきは云ふまでもあります、されば其開拓すべき場所、其地の産物とは何であるか、お申上げなければ、お判りがあります、先づ其事からお話しする事に致しませう、場所は肥後の東南五個庄と云ふ奥山であります、熊本から里程を起算すれば、二十里からありますが、五個庄の入口も申す、小川からはタツタ十二里位に過ぎぬのであります、此十二里の間は、只今の處では牛馬の

通行さへ出来ない、細い山道でありますから、如何に物産は腐る程あつても之を市場に出す事が出来ないであります、物産の重なるものは、木材、茶、椎茸等であります、木材は太さ十圍もある檜、杉、槻、松、楠等が、廣袤六十里からある山に、森々鬱々生い茂つて居りますから、之を毎日千人近くの木挽や樵夫の手で、採伐致しましても、百年かものは大丈夫盡きる氣遣はありません、茶なごは自然生のもものが、十里も二十里も繁茂して居りますから、之を摘取つて紅茶なり磚茶なりを製造致しましたならば、年々八九十萬圓を得る事は容易であります、若し適當に道を開いて、木材を運び得るやうになりましたならば、木材から産み出す金額は、逆も千萬や百萬の話ではありません、同じ起業に心あるものならば、五個庄の如き所を開拓して、國家の富源を作ることに力を致されて欲

しいものであります。

(よ) 演 説 体

寄 亭 開 演 式 の 辭

伊藤白水君の經營に係る、講談落語の寄亭は、出場の藝人を選択せられて、社會教育の一端なるべきものを、話題に取るべく注意せられましたので、藝人等も白水君の意のある所を諒し、淫猥に渉る事柄や、荒唐無稽の談話なごは、全然避けまして、専ら忠孝節義を鼓吹する事に務めました故か、所謂客筋なるものがズット上品になつて、自然收入も以前に加倍するの盛況を呈するに至つたのであります、這是白水君が用意周到の致す所であるは、言ふまでもありませんが、登

場藝人の伎倆が尋常に卓越する事も、亦た大に認めて遣らねばなるまいと思ふのであります、今回出入口や二階なごに、十二分の手入を施して、舊來の面目を一新せられましたから、今後の繁昌も豫想するに難からぬのであります、今日修築工事が落成致しまして、愈々開演式を舉行せらるゝに際して、私は白水君の健康を祝し、併せて當寄亭の將來に於ける、大發展を祈るのであります、御祝ひをして一寸一言申述べた所以であります。

### 洋服商組合會議に臨みて

諸君……私は今日頭取より値下協議會開催の通告に接して、出席致しましたが、一体頭取は何の見る所があつて、突然斯の如き議案を提出せられたのでありませ

うか、實に了解に苦むのであります、勿論昨年原料不捌の爲めに、我同業者間には、いづれも生地は堆積致して居りますが、物價の暴騰につれて、職工の賃銀が上向きになつて來た今日の場合に、値下を斷行しやう云ふのは、如何なる理由が伏在して居るのでありませうか、道路の傳ふる所によれば、某々同業者は、流行遅れの生地を持餘して居る結果、此際値下でもして、多くの顧客を吸収しやう云ふ魂膽だそうですが、果して然らば、自己一人の利益の爲めに、組合の体面も組合の信用も、悉く犠牲に供せんとする、非合理の手段云ねばならない、時、折も折、斯る無意義な集會を開いて、値下を強ふるが如きは、實に不都合千萬云はねばなりません、私は先づ頭取の不信任から決議したのであります、更に終に臨んで、私は値下云ふ事は、徹頭徹尾、不賛成である事を明言致して

置きます。

## (よ) 講演体

## 餘興の選擇に付て

各學校の學藝會とか、講演會とかの後には、いつも餘興として種々の催しがあり  
ますが、之は眞面目一遍では、生徒の頭腦も餘りに硬化するか、熱化するかして  
主たる目的を貫徹するに、支障を來すからでありませう、之を譬ふれば、朝から  
晩まで甘い物の御馳走攻めでは、如何に下戸黨なりとも、鼻について來るもの  
ありません、斯る場合には酸味の梅干も、却てカステラに勝る事がないとも限り  
ません、理窟一遍の而も大同小異の題目に付て、長時間に涉つて、演べ立てられ

ては、よし其内容は大に耳を傾くべき價値があつても、到底靜聽せられるもので  
はありません、されば斯る無趣味のものに代ふるに、興味津々たるものを以てし  
て、會場の空氣を一新するところは、猶炎天枯死の稲苗が、驟雨の一過と共に、勃  
然擡頭するやう、再び潑刺たる元氣を回復するところが出来るものであります、此  
意味からして、講演會や學藝會に、餘興開催の必要ある所以であります、しかし  
講演の時間には、演者が科學的智識の啓發に、貢獻する所あらんご、熱心に講述  
した其跡に、低級なる藝人を聘して、鍋島猫騷動の如き怪談か、俠客傳の如き、  
非倫理的のものや、非科學的のものを喋舌らすやうでは、折角受入れた科學的智識  
も、餘興の爲めに全然破壊せられる場合がないでもありません、或一部の人は、  
中等教育を受けつゝある中學生徒等は、既に其眞偽を嚙み分ける智識があるから

怪談の内容を現実的のものに、誤信するやうな事はない筈であれば、之を餘興の一つに加へたからきて、何等弊害の生ずる憂ひはないに、澄し返つて居るのであります。これは未だ我國家の裏面を透見するの明がないと言はねばなりません。夫の憑狐の説や、庚申の崇りなごは、今猶智識階級の家庭でも、有力なる話の一つに數へて居るではありませんか、まして低級の家庭に來ては、迷信は先祖傳來の寶物も同様、堅く執つて離さないのではありませんから、怪力亂神の談話が、弊害なしとは斷言する事の出来ない筈である、要するに餘興としては、西洋式の手品か、巖谷式のお伽話位が、尤も適當ではあるまいかと思ふのであります。

(た) 演 説 体

唐物反物店開業式の辭

御貴臨の諸君に一寸御挨拶申上ます、諸君は御多忙の處お厭ひもなく、御出下さいました御厚意は、實に御禮の申上やうもござりません、私が今回此地に於きまして、唐物反物業を開店致しましたに付きましては、多少考へる事がありますので、強ちに營利一方を目的とするではありません、近來物價の騰貴につれて、到る處に生活難の聲を聴くやうになりましたが、如何に物價が騰貴致しましても寒くなれば寒い時のやう、暑くなれば暑い時のやう、夫々分相應に、衣服の新調をせねばなりません、外の贅澤品なら、先きに延ばす云ふ事も出來ますが、衣

服の如きは人間の生活上、食物に次いで尤も必要なるものでありますから、怎うしても之を擲つて置く譯には参りません、言つて……一着の木綿服を新調するでさへ、今日では四五圓の金を要しますから、中流以下の方々では、一時に四五圓の金を、お拂ひになるに云ふ事は、失禮ながら非常に御苦痛だらうに存じます、一枚の被服代が既に四五圓を要しますから、若し多くのお子でもあらせられる方は、其お困りの程度も、實に想像の外であります、そこで私は月賦償還の法を以て、此缺陷を補ふて見たいに存じて、開居致した次第であります、勿論月賦償還の方法は、随分是迄行はれ來つた事ではありますが、私の方法は多少之は趣きを異にする考であります、一戸を有して居る人であれば、其収入の多寡によりて、品物をお渡し致します、保証人なごの必要は更らにないのであります、よ

し償却期間に全部の支拂が出来ない場合は、其理由さへ明確に認めますれば、更に期間を延長して、其人の便利を謀るのであります、又反物の地質さか品質さかは、精選の上にも精選してありますから、他店に勝ることも劣ることは、斷じてございません、以上の次第でありますから、さうか諸君も充分御同情下さいまして、私の初志を貫く事が出来ますやう、御援助を願ひたいのであります、聊か開店の理由を申上げて今日の式辭に代ふる事に致します。

### 大工組合服務規約勵行に付て

諸君……我々も労働界の一員である以上、時代の進歩に伴ふて、人格の昂上を謀る事は、當然務むべきものと思ふのであります、以前は大工だの左官だの云

ふ者は、得意先きの主人からは、恰も一種の幫間扱を受けたものであります、之も云ふのも得意先きの身代に眩惑して、追従だらく、多少の惠與金に有付きたい云ふ、卑屈心が手傳ふたからであります、自己の技倆を發揮して、當然の報酬を受くる云ふ、自尊心が旺盛であるなら、斯んな意氣地のない事はされるものではありません、折角悪まれ序に、今一つ是までの悪例を舉げて見ませう、御互は兎角得意先きの愛撫に狂れて、忘れ放題に怠けたものであります、一日の仕事時間を、嚴格に勘定致しましたならば、喫烟喫茶、若くは馬鹿話で、半日は空過したものであります、甚しきに至つては、樹陰の床凡に、一睡陶然、斜陽西に没するを知らぬ事さへあるのであります、實に無責任極るぢやありませんか、斯る自墮落な行爲を、いつも繰り返して居ては、一生頭の擧る事はないのであり

ます、されば今後は服務規約を、床の間の置物 板 にせず、愈々本氣になつて、之を勵行する事にしやうぢやありませんか、一寸開會の要点を申上げた次第であります。

### (た) 講演体

#### 紙鳶と飛行機

諸君……諸君は、寺院の壁畫なごに、鵬翼に均しい翼を備て居る、天人や仙人の像を御覽になつた事があります、此等の壁畫に付きまして、研究致しますれば、空中飛行の理想は、古代の人間にもあつた事が判ります、特に此理想は繪畫の上に現れて居るばかりでなく、古代の文書の上にも、散見して居るのでありま

す、列子の空中飛行の高言や、久米の仙人が女の脛の白きを見て、空中から墜落した話などは、ありふれたものでありますが、例の神仙傳や、述異記などには、随分具体的の話が載せてあります、事の眞偽は暫く措き、古代人民の思想は、誰れでも或る一定の仙術を修得すれば、必ず自由に空中を飛び廻れるものさ、信じて居たやうであります、降つて周末の世となりまして、墨翟云ふ大學者が現れました、此學者が創造した飛行機は、恁んな形であつたか、韓非子の外には、其詳細を載せた書物がありませんから、よくは判りませんが、素より發動機のない時でありますから、いづれ紙鳶のやうに、風の向々に飛ばしたものでありませう、一旦勁風疾風に遭遇した時は、搭乗者は忽ち急轉直下、身体を微塵にした事は、想像に難からぬのであります、其大膽なる飛行振りは、實に惰夫をして起したむ

るに足るのである、若し墨翟の遺志を承ぐ人があつて、改良に改良を加へたならば、飛行機の發明は、泰西人の力を藉らず、疾くのむかし、支那人の手で完成されたかも知れませんが、惜い事には支那人は孔子の教を以て、萬世不易の大道を心得て、他は皆異端として、排斥した結果、國民の發展も國勢の發展も、見るこゝが出来なくなつたのであります、劉項鎬を削つて争つた折、韓信は垓下の城攻めに際し、紙鳶の上に人を乗せて、之を便風に飛ばして、城下の敵状を探らした實例もあります、此以後支那の史籍には、此の如き冒險的態度を學んだ者はなかつたのであります、よし其形体や構造は、不完全であつても、空中飛行の端緒を啓いたものは、何云つても支那の墨翟であります、墨翟の飛行機から紙鳶を産み出したものか、紙鳶から飛行機を産み出したものか、之れとても判然致しま



せんが、要するに空中飛行の理想は、古代の人民にもあつた事は、歴然たるものであります。

### (れ) 演 説 体

#### 禮法指南場開始の辞

禮儀三千威儀三百は暫く措き、人一人が交際致しまするには、必ず禮云ふ者がなくてはなりません、如何に近しい父子の間でも、夫婦の仲でも、此禮云ふ者を取つて仕舞ましたならば、決して家庭は圓滿に治まるものではありません、親子喧嘩ごか、夫婦間のセセリ合ひごか、又は朋友の間の仲違ひなごは、要するに肝腎の禮を失ふからの事であり、換言すれば恭敬の念慮が薄らいで、兎角

放縱に流れるからの事であり、一進一退の方式も、時により折りに觸れて、皆夫々の作法はあるものでありますが、如何なる場合ごても、決して忘れてならない者は、只今申上げました、恭恭敬敬であります、之から諸君にお授け申上げる諸禮も、其型は色々ありますが、其極意云へば、恭であります敬であります、先づ禮法の大体を述べて、開會の辭に代へます。

### (そ) 演 説 体

#### 葬儀場に於ける吊辞

人生終極の問題は、死の一字に歸着するのであります、死其者が斯くも人生に重大な意義を有して居りますから、古來此問題に付きまして、幾多の學者が種々の

解釋を試みましたのも、亦た無理からぬ事であり、一体此死云ふ事は、實に人生の一大恨事で、而も又一大慘事には相違ありませんが、生者必滅の理法は何人にも用捨なく、之を賦課するのであります、又死なる者が人間永久の名譽に大關係がありますので、賢愚不肖の差別なく、其斷末魔に際しまして、煩悶致すのも當然の事であり、只だ世の智者たり賢者たる所の人々は、平生無事の時に、早くも之が處置を付けて置きますから、よし何時無常の風が襲つて來しても、少しも狼狽する事もなく、從容して眠に就く事が出来るのであります、我が加藤正清君の如きは、壯年の頃より、父祖の遺業を繼承せられまして、終始一貫、正直を以て成功の秘訣として、刻苦精勵、貿易事業に盡瘁せられた結果、家運は年々共に昌へ、今や我國の實業界に、一二を争ふ程の富を作られたのであり

ます、殊に子弟の教育には、自家の事業よりも、より多くの注意を拂はれた爲めに、令嗣忠廣君は帝大出身の法學士として、某銀行の頭取に擧られ、次男忠行君は商業學士として郵船會社の支配人となつて居られるのであります、又多くの令嬢方は、良媒良縁によりまして、相當の聲公を得られましたから、加藤君にあつては、最早人間の任務は、悉くなし遂げ盡し卒へられたと云つてもよいのであります、天にして今少しく餘命を與へましたならば、加藤君の事業も、層一層、大成功を見るここが出来たのでありませうが、天の命數は又如何ともするここが出来ないのであります、併し加藤君は年齢の上から申しましても、既に古稀を越する七歳であります、又業事の点から申しましても、さ程の遺憾はないのであります、御一族の方々としては、其死を悼まるゝのは、さこそ御推察申上げますが

加藤君の死は、單に形骸のみの死であつて、其精神に於きましては、永遠無窮に天地の間に磅礴致して居りますれば、又大に慰むる事が出来るのであります。私は故人の友として、茲に謹んで其人格と事業の一端を述べて、故人の靈に別れを告ぐるのであります。

### 染物業組合相談會に於て

諸君……世の諺に紺屋の明後日云ふ事があります、此意味は諸君も御承知の如く、一時の責任遁れ云ふ事ではありますが、我々同業者は、果して世評のやうに、斯る無責任の行爲を敢てしたものでありませうか、天氣さへ打續けば、なるべく速かに工程を急いで、手間賃を申受ける云ふのは、何人も希望する所で、

往再日子を空過して、依頼品を筐底深く仕舞込んで置くやうな、無慾無智の人は今日の同業者には、断じてなからうと信じます、然るに今猶世人が我々同業者に對して、紺屋の明後日てふ惡評を加へます所を見ますれば、何事か其處に、一の陰影があるではありませんまいか、私の見る所によれば、近來競争の餘弊として、到底約束期日に、出来ないことは承知しつつも、無暗に注文を引受ますので、一旦雨天でも打續けば、明後日は愚ろか、一日又一日、加減に遁辭を弄して、華客を瞞過致しまするが故に、終には斯る惡評を浴せかけられるのではありますまいか、之は實に御互の信用を損ずるのみならず、馳ては事務上の衰微を來す所以ぢやないか、心配致すのであります、よつて組合同規約第二條の明文にありますやう、今後は得意先の爭奪に腐心するやうな、不道德な事は互に相戒め相慎みまし

て、工賃の統一を謀るに共に、注文期日は必ず正確に實行するに云ふやうに、改革致したいものであります、之を以て開會の辭を致します。

### (つ) 演 説 体

#### 通俗講演會の席上にて

諸君……本日通俗講演會の開催に際して、幹事より一場の講演を試み呉れこの御依頼でありましたが、刻下多忙の折柄なれば、別段腹案もありませんから、御断り申したのでありますが、強ゐての御頼みでありますから、止むを得ず本壇に立つた次第であります、私は只今不圖思付ました、基督の十字架に付て、少しく述べて見やうと思ふ、人間が天壽を全ふして死する事は、殆んど問題にならない

が、殉死、義死、節死、憤死、愧死、悔死、情死などは、いつも議論のある所であります、一体死に云ふ者は、人を美化するに同時に、又其人の短慮淺慮快慍等の性格を遺憾なく語るものである、只だ死の絶美情の極致に達したものは、情死だけであります、是ればかりは名利の念などは、露微塵もないやうであります、其死然を得ないことは、多く語るの必要もありません、往年乃木大將が、天日己に墜つるの時に方り、夫妻見ん事殉死を遂げて、千載忠臣の美名を宇内に轟かした事は、諸君が熟知の事ではありますが、此殉死に付ても、兎角の批評を加ふる者もありませんけれども、其從容として迫らず、徐ろに後事を處理して、死に就かれた處は、何と言つても武人の典型に値するのであります、之に就いて更に想ひ浮べます事は、一代の詩人岡本黄石の實兄、宇津木益夫が大鹽平八郎の義

舉に殉難した一事であります、宇津木は大鹽が平生一臂を頼む、最愛の門弟であつた、豫て九州方面へ遊歴して居ましたが、大鹽が明日義舉の幕明けをしやうと云ふ時、飄然歸り來つて大鹽を訪ふたのでありますから、大鹽は飛び立つ思ひで懇ろに歡待致しました後に、逐一秘密を打明けて加盟を迫つたのであります、一議に及ばず承諾するかと思ひきや、斷然之を峻拒して、其無謀を極諫したのであります、大鹽もさるもの、事の漏洩を慮つて、諫めを容るゝ風を装ふて、快よく中止すべく誓つたものだ、慧眼なる宇津木は、大事を告げられた身は、今夜の中に息の根を絶れる事は、チャンと前知して、潔く師の爲めに、一命を捧ぐべき次第を細々認めて、之を従僕に托して家郷の父母に傳へたのであります、諫めて川ひられず、さればと言つて、暴舉に加担すれば、千載賊名を負ふのみならず

ず、汚辱を父母にまで及ぼさねばならないのである、師の急を知りて遁るゝは、宇津木にあつては、猶更忍びないのであります、此間に處するの道は、只だ一の死あるのみだ、已に死を決す、雪花一片紅炉に落つ、大丈夫の本領茲に於て全しである、刻一刻死期は迫つて來るにも關らず、宇津木は一室に端座し、短檠を友として、讀書に餘念がなかつたのであります、折から聞ゆる人の足音、俄然障子を排いて、宇津木先生の御意だ、足下のお命頂戴仕るこ、明晃々たる手槍が眼前に閃めいた、宇津木は胸押し寛けて、死は覺悟の事、イザ御勝手にお突き召されこ、従容して死に就いたのであります、其覺悟の神妙さ、其死狀の壯烈さ、宇津木程の者が、天下又ごありませうか、只だ沖禎介のハルピンに於ける殉難が稍之に庶幾いのである、以上の殉難を以て、耶蘇の十字架上の慘死に對比せんこ

するのには、或は非倫の誘りを免れないかも知れませんが、神の子と呼ばれ、又神の子と信じて居た、彼が斷末魔の舉動は、我々日本人の目から見ますれば、實に女々敷感じが起らないでもありません、「天地は廢せんされど我言は廢せじ」なごの大抱負を有つて居た、神の子たる彼は、死の刹那に到つて、何が故に絶望の叫びをなしたのでありませうか、天下萬衆の爲めに流す所の血であつたならば、寧ろ笑を含んで死でもよい筈であります、私は敢て彼が死を畏れたことも申しません、又死を厭ふたことも論じませんが、左に一人の盜賊右に一人の盜兒が、業に已に十字架上に釘づけられて居る其の中央に、彼も亦た同一の運命に逢着したのであります、十字架を圍繞せる祭司の長や學者等が、頻りに嘲弄の言を浴せかける其瞬間に、有意か無意か、彼は「エリ、エリ、ラマサダクタニ」即ち吾神吾神何

ぞ我を遺て給ふやご、大聲を放つたのであります、之に對しては相當回護の辯疏もありませうが、私なごは其死狀に付ては、多少の遺憾を懐くものであります。

諸君…… 耶蘇の十字架上の横死ほご、世に憐めなものはありますまい、今まで弟子として教を受けつゝあつたユダは、あらゆる事かタツタ三十兩の爲めに、意馬心猿が狂ひ出して、無辜の恩師を方伯の手に渡して了つたのであります、處が……ユダも良心の苛責に堪へず、悔悟の縊死を遂げましたから、因果應報の理法は、之で帳消しになる譯ではあります、其師弟の情誼の淡々たること、恰も水の如くであつた事は、争はれないやうであります、現に祭司の長につれ往れる危機一髪の際にも、朝夕親炙して居た弟子ごもが、之を救ふでもなく、又死を共

にするでもなく、殆んど袖手傍觀の態度を取つた、弟子等の非義非道は勿論であります。が、耶蘇が弟子に於ける、徳望の薄かつた事も、推想し得らるゝのであります。又祭司長の下婢が、ペテロを見て、汝も亦耶蘇の與黨ならん詰つた時、ペテロは禍害の身に及ばんことを恐れて「誓つて我は神の崇りを受ることも、爾嘗が曰ふ其人を我は識らざる也」と明言したのであります。腰拔き申しませうか、輕薄き申しませうか、殆んど命名の下しやうがないではありませんか、耶蘇が臨終の際まで、遠くより見守つて居た者は、年少のヤコブも、ヨセの母なるマリヤ又サロメ其他婦人の一群でありました。男子に徳望のなかつた耶蘇も、婦人には非常に愛された處を見ますれば、其性格の半面もほど讀めるではありませんか、叙上の事實は如何に曲解するとも、耶蘇に偉大の感化力がなかつた事は判るやう

であります。平生は大言壯語他を威壓せずんば止まなかつた彼も、四圍の事情が已に此の如くでありました爲めに、終には不安の念に驅られて、思はず知らず、「吾神吾神汝我を遺て給ふ乎」と云ふ、淋しい叫びを發したものに相違ないのであります。むかし禹が江を渡つた時、怪物が舟を支へて顛覆せんこした事がありました。其時舟中の人々は顔色を失つて、ガタ震ひをやつたものです。獨り禹は平然澄し返つて、「生は寄なり死は歸なり」と云つて、毫も意に介さなかつたのであります。之を耶蘇のエリエリの叫びに比すれば、實に死生の境界を超越した大悟徹底の大偉人云はねばなりません。かう言つて見ますれば、耶蘇の修養にも、未だ不足の点がある云ふ、結論を得る事になるのであります。終に臨んで諸君の靜聽を感謝致します。

### 通運會社仲仕の同盟罷業に付て

諸君……今日俄かにお集りを願ひましたのは、毎日使用しつゝある仲仕連が、物價騰貴を口實として、屢々不當の賃銀を要請致しますので、會社の方では斷然之を拒絶致しました結果、今朝同盟罷業を企て、本社に甚大の迷惑と損害を加へましたから、其巨魁を認める者は、既に鹹首するご同時に、附和雷同する所の仲仕共には、充分の訓戒を加へて見ましたが、彼等は多勢を頼んで、今猶喧々囂々其非合理の要求を迫りつゝあるのであります、荷主側の迷惑は、實に氣の毒千萬ではあります、去りて彼等の要求を容るゝとすれば、會社の損害は決して鮮少でありませんから、伺ひか應急の手段を取るべく、茲に株主諸君の御出席を願

つた所以であります、勿論中にはあらゆる迫害を受けて、心ならずも同盟罷業の仲間入を致して居る者もあるやうでありますれば、先づ當分の間は、自然の成行に任せて、一方鮮人労働者を狩り集めまして、此缺陷を充當しては如何のものでありませうか、今日直ちに定員だけの労働者を集めるご云ふ事は、多少困難ではあります、廣島博多方面に、社員を急派して、募集を試みましたならば、四五百の鮮人を得る事は、決して至難な事ではありませぬ、又刻下罷業中の仲仕は、一錢の貯蓄もない、其日暮しの連中でありませれば、數日ならずして糊口に窮するの餘り、必ず改悛して軟化する事は、見易い道理であります、で……會社は此方針に向つて、進みたいと思ふのであります、株主の多數は皆本社の荷主でありますから、特に此集會を催して、諸君の御意見を伺ふ所以であります。



## (ね) 演 説 体

## 年 賀 回 禮 廢 止 に 付 いて

年賀回禮は、人生社交上の禮式でありますから、尤も尊重せねばならないのでありますが、近來の如く徒らに形式の末に趨つて、單に名刺を投込むだけでありますれば、寧ろ之を撤廢して、端書の交換に留めた方が、自他共に便利であらうと思ふのであります、従前の如く泛交を避けて、會心の親友に限つて、往來致しました時節でありますれば、一年一度の事なり、相互に訪問して、盛饗を受けつ受かれつ、平安を祝し幸福を祈る云ふのは、自他の交誼を厚ふる上に於て、此上もなき吉祥善事であります、現今の社會では、斯る悠長な事は、事情の許さ

ない点がありますから、自然簡便主義を採るに至るも、亦止むを得ない次第であります、されば社會の表面に立つて、少しく活動する位の者でありますれば、自然交際も廣いのでありますから、正月五個日が間は、各刺投込みの爲めに、腕車か自動車で乗り廻して、ヤットコ回禮を濟すやうであります、若し一々主人か家族に面接を求めて、丁寧に祝意を表する事に致しますれば、正中中は回禮に忙殺される事になるのであります、よつて斯る虚禮を交換するよりか、謹賀新年の端書を贈答する方が、却て眞情の發露を見る譯でありますから、私は斷然之を廢止致したのであります。

## 念佛講に臨みて

今晚此處にお集りの方々は、深い信仰を有て居られる事は云ふ迄もありません、付きましては、私は迷信の信仰を云ふ事に付て、少々お話し申上げたのであります、宗教の大眼目は、六つ借しい詞で申上ぐれば、阿耨多羅三藐三菩提、即ち無上覺道で、之を平たくお話しすれば、悟を開く云ふ事になります、其悟を開く迄に至りますには、第一皆さんのやうに、信念が厚くなくてはなりません、宗教から信仰を取り去つて仕舞へば、恰度濃霧の中に立つて、天日を見んごするやうなもので、逆も其光明を認むる事は出来ないであります、さて一ト口に宗教を申しまして、種々様々に宗派も別れ、教義も異つて居りますが、其ドン詰りは

皆無上覺道の地点に達する筋道を教へたものであります、強めて其異つた所を申しますれば、其方便が他力によるか、自力によるか云ふに過ぎないのであります、由來法華宗に凝り固つた人は、念佛宗を痛く攻撃致します、又念佛宗に歸依した方は、他宗を見るに、恰も邪道のやうに思ひ違つて居る人もあります、之れがそもぐの間違で、畢竟其好む所に阿ねる云ふもので、テンから宗教でふ意義を了解せないから、斯んな僻見が起るのであります、古歌に「別け上る麓の道は多かれど同じ高嶺の月を見る哉」云つたやうに、涅槃に達するまでには、賢愚不肖の差別によつて、色々其道筋は變るべき筈であります、併しドドの詰りは、同じ高嶺の月を見る哉で、決して終極の目標が變るべき筈のものではありません、現にお釋迦様が、法華經を説かれる迄には、四十九年未顯眞實を申されま

した、眞實の事を云つて聽かしても、凡夫凡婦は、容易に信用致しませぬ、そこで之を性得相應に導いて行かふ云ふには、時には方便も用ひねばなりません、釋迦が四十九年の説法は皆方便であつて、入寂以前が眞實正味の説法であつた事は、釋迦の自白によつても判るではありませんか、徒らに方便の末を争ふて、眞實の教義を味ふ事が出来ませんならば、必ず迷信に陥るものであります、皆さんが寺院に參籠されるのも、大切な事であり、又高僧名僧を尊崇せられる事も大切な事であり、只だく避くべき事は、愚僧の邪説に惑はない事、淫祠に詣で、勝手なお祈りをせぬ事であり、凡そ人として宗教心のないやうな人は、何處かに其人の大欠点を見出すものであります、之に反して宗教に厚い信仰を有て居る者は、何處かに其人の奥床しい点を認め得らるゝものであります、私

は迷信に陥らない限り、宗教に歸依する程の人には、大に敬意を表する一人であり、ります、終に申上げて置きます、宗教の要旨は、轉迷開悟の四字につゞまるものと、御承知が願ひたいのであります。

(な) 演 説 体

内國通運會社仲仕相談會に於て

諸君……近來勞働社會の風潮を觀察致しますれば、實に面白からざる傾向があるのであります、何等か多少乗すべき機會がありますれば、忽ち同盟して貸銀の値上を迫るやら、或は賞與金の要請なご致しまして、得々乎たるの有様であります、其原因を研究して見ましたならば、色々複雑な事柄も潜んで居りませうが、

私わたくしの見る所ところを以もつてしますれば、先まづ一般はんの労働者らうどうしやが、自家じかの分際ぶんさいを忘れて、華くわ奢しゃに流ながれて來きたのこ、又また一つには物價ぶつが騰貴とうきの爲ために、生活せいくわつなん難なんが生せいじたのが、重おしなる原因げんいんではないかと思おもふのであります、物價ぶつがの騰貴とうきは自然ぜんぜんの趨勢せいせきでありますから止やむを得えぬのであります、華奢くわしゃの傾向けいこうを矯止けうせいするこ云いふ事は、人力じんりきで出來できない事ことはありませぬ、先まづ其方策そのほうさくの一い致いたしましては、我々われら同業者どうぎやうしやは、冠婚葬祭かんこんさいさいの場ば合あでも、一切いっさい絹服きゆうふくを用もちひず、常つねに棉服めんふくを纏まとふ事ことに、堅かたく相談そうだんを遂たげまして、之これを犯なした者ものには、相當そうどうの制裁せいざいを加くわへる事ことに致いたしましたならば、必かならず行ゆく行ゆくは効果こうかを見るここが出來できやうこ信しんするのであります、他たの労働社會らうどうしやかいのやうに、幾千いくせん萬まんこ云いふ多數たすうであれば、斯ごとんな規約きぎよくを結むすんでも、一いの空文くうぶんに屬ぞくして、之これが實行じつこうを見るここは却々なかく難がたい話はなしであります、我々われら同業者どうぎやうしやの如ごとく、僅わずかか五六百人じゅうにひゃくにん足たらずの人ひと

員いんでありますれば、互たがひに戒飾かいしやくして之これが實行じつこうを促うながす事ことは、決けつして至難しなんではありませぬ、我々われら同業者どうぎやうしやからは、同盟罷業どうめいはいぎやうもか、賃銀要請ちんぎんようせいもかの不祥事ふしやうじを見みないやう、豫あらかじめ陰雨網繆いんうちうみょうの計けいを立て、置おく事ことが、必要ひつやうではあるまいかこ存ぞんじまして、本會ほんかいを開ひら催もよほして、御相談ごそうだん申まを上ある所以ゆゑであります。

### (ら) 演 説 体

#### 労働者大會に臨みて

諸君しよくん………在朝在野ざいとうざいげを問とはず、我國わがくにの政治家せいじかは、労働問題らうどうもんたいに對たいしては、甚はなはだ冷淡れいだんのやうであります、されば労働者らうどうしやを統率とうそつする、一大權威だいつくわんいある政治家せいじかもなければ、又また労働者らうどうしやの人格じんかくや器能きののうを昂上こうじやう發達はつたつせしむべき所ところの指導者しうどうしやもないのであります、勿な

論各地に分立する、大小幾多工場の所在地には、友愛會もか勞友會もかの、結合團體を見ないでもありませんが、其會長たり副會長たる所の者は、執れも皆勞働者以外の人でありますから、勞働界の重要問題が突發致しました場合でも、之を圓滿に解決する事が出来ないであります、何となれば纔かに泰西の譯本によつて得たる所の智識を、大に事情を異にする、我勞働問題に應用しやうと云ふのでありますから、いつも失敗に了るのは當然の事であります、我國今日の現状では未だ委員制度の設けあるでもなく、又工場管理權の認められるでもありませんから、イザ賃銀の増給もか、勞働時間の短縮もかを、資本家に要求する時でも、適當の主腦者が無い爲めに、正々堂々、理非を口舌の間に闘はす云ふ事が出来ず例によつて例の如く、喧々囂々の極、或は器械を破壊したり、或は工場を打毀し

たりして、瞬間の快哉を叫んで居るやうであります、斯る非常手段も、時には功を奏するかも知れませんが、之が爲めに忽ち作業上に大頓挫を來すと同時に、幾多の勞働者も、其筋の檢擧する所となつて、牢獄に送られるやうになりますから彼我の損失は實に甚大なものであります、勞働者側の要求を容れないからと言つて、建物や器械を破壊するやうな、非人道の暴擧を敢てしては、工業の進運を阻害するのみならず、其生産上に及す所の損害は、單に資本家の迷惑なる計りぢやありません、延いては國富の一分を滅殺するのであるから、其罪や輕るからずである、若し數々此の如き事を繰り返したるが最後、世人の反感を拓致して、勞働者を嫌惡するやうにならぬとも限らないのであります、頻々西洋各國に行はれる同盟罷工は我國のそれとは、大に趣きを異にするのである、賃銀の増給を迫る際

にも、労働時間の變革を促す時にも、労働界の團長とか組長とかを、交渉委員に推薦して、其主張の貫徹を一任するのであります、此委員は資本家との交渉が、未だ孰れも決着せない場合は、談判に關係のない幾千萬の労働者は、平日の如く各自擔當の工事に執掌して、殆んど他を顧みないのであります、交渉數次の後労働者側の要求が、終に資本家の容るゝ所とならず、イザ談判が破裂したと云ふ時には、委員の一命令の下に、愈々同盟罷工が實現せらるるのであります、其一進一退が毫も紊れませんのは、恰も勇將が三軍を叱咤すれば、千兵萬卒、寂しして聲なきやう、尤も嚴肅に尤も正當に行はれますから、同盟罷工の權威は、非常手段の暴舉よりも、より以上に資本家の心膽を寒からしむるのであります、今俄かに西洋各國の例に倣ふ事も出来すまいが、先づ差し向き労働者諸君が、自己

の立場を自覺すると同時に、平生勤儉貯蓄を怠らせずに、不時の不幸や、不時の支出に、事缺がないやうに、用意を廻らして置く事が、尤も緊要であらうと思ふのであります、取つては使ひ取つては使ふて、いつも囊中無一物の壽寒貧では、到底資本家に對抗する事は出来ないのであります、總じて人間が此世を渡つて行く方便の一として、什麼しても金力を背景を備へねば駄目でありますから、返すくも貯蓄を云ふ事は、忘れてはならないのである、先々月神戸に於ける勞資爭議は暫く措き、我國労働者の状態で、一ヶ月を健全に同盟罷工を繼續する事が出来ませうか、恐らく其内には軟化する連中や款を資本家に通じて、自己の慾望を満たすやうな、腑甲斐ない者が、續々現出するのは、見へ透いた話であります言ふまでもなく、一錢の財蓄だにないので、労働者の特色であるから、節を守る

この出来のないのも、止むを得ない事情である、そこで私には此際是非とも一大労働黨を組織して、自黨中の稍傑出せる人物を黨首に仰ぎ、問題の突發する毎に資本家に對する交渉其他一切の件を委託し、一進一退凡ての行動は、黨首の命令通りに遵奉して、決して社會の安寧秩序を害さないやうに致したいものであります、而して選舉權を有する地位に進んで、國會議員や縣市會議員に、或は選び或は選ばれて、労働者の勢力を扶殖して、資本家に對抗するの策を講ずるのが、今日の急務であらうに信ずるのであります、徒らに自卑を嘆じて、不平を洩らすやうな事は、斷じて爲すべきものではありません、労働者諸君が憤起すべきは此時であります、驟起すべきは此際であります、暴言暴行は恃り國法の許さざるのみならず、自己の自滅を促す所以である事を、牢記して貰ひたいものであります。

### 蠟燭製造業組合集會に於て

諸君……近年電燈や瓦斯が、著しく跋扈致して参りましたので、諸君の御營業上に、尠からず打撃を與へた事は、實に同情に堪へないのであります、併し社會組織の上から申しますれば、大局の利益の爲めには、小局の利益は、犠牲に供せられても、事情止むを得ない事は、諸君も既に御了解の事と存じますが、需川者が減少すれば勢ひ供給者も、減じて來る事は、當然の趨勢であります、今日では御同業者も、過半轉業せられましたから、現在の同業者諸君は、或意味に於て、獨占事業とも云ふべきものでありますから、随つて競争云ふ事がなくなつたやうであります、此競争云ふ事が、なくなりますれば、自然利益も多い譯であり

ます、如何にハイカラ的家庭でも、神佛を祭る御燈明には、今猶蠟燭を使用致しますから、此需用だけでも、大したものだらうと思ふのであります、又田舎なごでは、暗夜道を照らすには、猶且提灯を用ひますから、如何に今後電燈や瓦斯が、跋扈を極めました所で、諸君の營業範圍は、強ちに蚕蝕を受ける氣遣はなからうと思ひます、只だ其原料たる所の、ステアリンや、パラフィンが、孰れも外國産なるが爲めに、價格を低廉にして、需用激増の方策を立てる事が出来ないのは遺憾の至りであります、よし外觀は悪くとも、大に日本蠟を使用せられて、輸入を防ぐご云ふ事は、富國の一端かご存じますれば、今日諸君の御集會を好機として、聊か卑見を述べたのであります。

### (む) 演 説 体

#### 無盡株式會社創立の祝辞

諸君……無盡ご申しますれば、世間では種々の取沙汰をするやうであります、勿論是迄個人の組織致しました無盡講は、中途で瓦解する者が往々ありましたので、早く落札したものは、幸福であります、正直に掛金して満期を待った人は馬鹿を見る事が屢々ありますから、兎角の批評が生ずる所以であります、併し我々共の組織に係る本會社の如きは、チャンご法定積立金もありませんし、又頭取には財産地位名望の三つに於て、尤も信用ある多賀良財三君が、就任せられて居りますれば、他の泡沫會社や、個人組織に係る無盡講なごは、固より日を同ふ



して語るべき者ではあるまいと思ふのであります、ごうか諸君に於きましては、能く叙上の事情を御了解下さいまして、續々御加盟下さらんことを希望するのであります、開宴に際して一辯を費しました。

(む) 講 演 体

無用と有用

諸君……私の演題は、茲に掲げてあります、無用と有用と云ふのであります、極端に申上ぐれば、天下の物は一として無用なるものはありません、一片の紙屑でも、又一小片の玻璃でも、之を捨つれば其れまで、ありますが、之を用ふる時は、又夫々の用を爲すものであります、兎角世の中の人には、有用の用を知つて、

無用の用を知らない事が多いやうであります、彼の間人は役に立つこか、彼の男は薩張役に立たない云ふ言葉は、屢々私共の耳にする所でありますが、之ら畢竟使ひ方を知らないからの事で、馬鹿は馬鹿なりに、何處にか又用を爲すものであります、馬鹿を伶俐にしやうにしても逆も出来ない事であるやうに、伶俐を又馬鹿扱ひしやうとした所で、到底行れるものではありません、總じて人を用ふる方法は、至つて困難なものでありますが、先づ使用者の地位に立つ程の人は難きを責めないと同時に、全きを求めないのが第一の條件だらうと思ふのであります、そこで古人は人を用ふるの始めに方りて、三様の見方を説いて居ります、第一は其人の樂む所は何であるか、第二其人の交はる所の人は、怎んな種類の人物であるか、第三其人の業体は何であるか、此の如く仔細に點檢致しますれば、

如何に其人が猫を冠つて居ても、其心術の正邪は、恰も秦鏡に照して見るやうに必ず歴然として反映する筈のものであります、登庸の始めに方りまして、用捨の道を過りながら、後に至つて役に立つるか、立たぬか、苦情や不平を鳴らすのは、會々自家の不明を公表するのであつて、決して擧げられた其人の罪ではありません、一例を擧げてお話し致しますれば、四肢五体共に肥満した人間を見て、之ならば力も強そうであるから、力役をさしたら必ず人一倍の働きを爲すであらうと、獨り極めに極めて、行らせて見ます、處が……其四肢五体の肥満を見へたのは、所謂水肥りであつて、一貫の瓦石すら荷擔に堪へない半病人であります、之を見て役に立ぬ用を爲ぬと、怒つて見ても叱つて見ても、後の祭で却て人の笑柄となるばかりであります、若し此水肥りの半病人を、適當の方面に用ひました

ならば、必ず其れ相應の役に立つ事は、受合であります、何となれば一片の紙屑でさへ、其用を待つて用ふれば、役に立つからであります、有用無用は、使用の方法如何によつて生ずるので、其實世の中には、無用ならのは一としてあるものではありません、只だ除外例として、怠惰漢と發狂人だけは、捨場に困るのであります。

### (う) 演 説 体

#### 魚市場開場式の辭

諸君……本日から開場の運びに相成りました、魚市場の創設は、直接市民に多大の幸福を寄與する事でありますから、私共は大に慶賀の意を表するに同時に、

將來の發展隆昌を切望するのであります、我市は漁港に接近して居りますから他の都市よりか、魚價は低廉であらねばならない筈であります、然るにいつも不廉なる魚類を食用しなければならぬ理由は、出入の自由なる魚市場の設備がない爲めに、總ての漁獲物は、一應魚問屋の手に渡り、更らに仲買人の手を経て小賣商の手に轉々するのでありますから、其間の手数料とか口錢とかは、皆魚類の頭にかゝるのでありますから、私共の口に入るまでには、原價一尾拾錢のものは、二十錢三十錢と釣り上げられるのが、殆んど通例になつて居るのであります、處で……今回原野大八君が、此弊害を看破せられて、義侠的に此魚市場を創設して、荷主と私共と直接自由に賣買の出来るやうに、便利を與へて下さるのでありますから、自今は低廉な肴を、膳部に上す事が出来るのであります、私

共は原野君の美譽を祝福し、併せて市場の萬歳を三唱致したいものであります、之を以て今日の式辭に代へます。

### 運動會の式辭

本日春期大運動會の御催しがあること云ふので、櫻井校長より御招待下さいましたから、私は喜び勇んで參觀に罷出たのであります、諸君が學校の課業に精勵して、好成绩を挙げられる事は、諸君自身の爲めばかりでなく、國家の文運を發展せしむる上に於て、尤も大切な事であり、が……學科が如何に拔群でも苟も体格が不充分であれば、成業の後之を實地に應用するに當りまして、必ず故障が生じて來るものであります、諸君の如き青年時代には、所謂泰山前に崩る

れども動かす云ふ、鬱勃たる元氣がなくてはなりません、此元氣は讀書の上からも得られませうが、体格が不健全であつたならば、一旦勃發した元氣も、忽ち阻喪するものであります、有事の時無事の場合を問はず、常に元氣が旺盛でありますれば、假令如何なる難事に逢著致しましても、決して辟易するやうな事はないのであります、西哲が健全なる思想は、健全なる身体に宿る言つたのは、實に千古の金言であります、さうか諸君は今後益々運動を盛んにせられて、身体の健全を謀られると同時に、健全なる思想を養成して、國家有用の人物になられん事を、只管熱望するのであります、父兄一同を代表致しまして、大に祝意を表し併せて校長の御厚意に對して、深く御禮申上るのであります。

## (の) 演 説 体

### 農學校卒業式の辭

私は日本の卒業生諸君に對して、大に敬意を表すると同時に、多大の希望を有する者であります、諸君が入學當時の世態を回顧致しますれば、所謂成金黨極盛の時代で、何某は何々の事業で、何十萬圓を儲けた、何の誰は何々の株を買収して、忽ち何百萬圓を贏ち得た之の風評の半面には、一夜千金を擲ちて豪遊を試みたとか、幾百萬金を投じて、邸宅を新築したとか、見るこして聞くこして、臺奢を唆るの材料でないものはなかつたのであります、世態人情が既に利の一方に傾きました爲めに、天下の青年も比較的利を得るに捷徑なる、工業や商業に趨り

ましたのも、亦た自然の道理に云はねばなりません、されば事業自体が地味でありますから、農業なごに志を立つる青年は、殆んど寥々乎たるの有様でありましたから、いづれの農學校も、門前雀羅を張るの淋びれ方であつたのであります、諸君は此間にあつて、世の風潮を追はず、敢然所信の貫徹に努力せられた、嚴立不動の態度は、實に激流中の一大巖石に云はねばなりません、諸君は既に斯る鞏固なる意思の所有者であられる以上は、今後大に農業の一大改革を斷行せられて、健實なる國富の増殖に、力を致して貰ひたいものであります、諸君にして私の期待を空しくせられませんか、軟化せる今日の士氣も、諸君の風を望んで、必ず昂奮するに相違ないのであります、之を以て今日の式辭に致します。

### 農談會に臨みて

諸君……私は農村の衰微に付きましては、深く心配致して居りますから、今日のお集りを幸ひ致しまして、聊か卑見を述べて見たいのであります、未だ正確なる統計は見ませんが、全國到る所の農村が、近年著しく衰微の兆候を呈して参りましたのは、最早掩ふべからざるの事實であります、十年以前には、千戸二千戸を有して居た大農村も、今日では或は二割或は三割も減じた所があるやうであります、人口の激増する割合に、農村の戸數が斯くも減少する所以は、何等に原山するかさ申しますれば、今日の青年は、兎角成功を急ぎます結果、勞力を費す事の甚だしくて、比較的利益の尠ない、農業に従事しては、到底富を作る事

は、不可能であるから、一番都會の地に踏み出し、巨萬の富を作り、郷黨の者にアツと言はせて見たい云つたやうな、空想を描いて、續々都會に出掛けますから、土地は自然に荒蕪する一方で、村落の外観も、家は傾き壁は剥ける云ふ見るから荒涼たる有様になつたのであります、農村の青年が、斯くも不眞目になつた原因の一は、都會華奢な弊風が、草深い農村にまで波及致しましたから、質素の生活が、馬鹿々々敷なつた爲め、終に途方もない野心を抱くやうになつたのであります、成程……如何に眞面目に農業を行つて居ても、到底成金屋にはなれません、されば三言つて、裸一貫で都會に飛出して、注文通りに成金屋になれるものではありません、金銭は多少儲けても、紅塵萬丈の間に醜態して、可惜壽命を縮めるよりか、廣濶なる田畑の中に、犂鋤を手にして、自然に親む方が

趣味の点に於ても、ドノ位高尚で呑氣だか知れませんが、私は此意味からしても、青年が轉業する事は、不賛成であります、諸君は富貴天にあり云ふ、古人の金言を遵奉せられて、世の風潮に溺れず、各々自己の天分を守つて、農村繁榮の大計を立てられるこそ、一番手早く成金屋になれる妙案であります。

### 農具陳列會に於て

諸君……農具の改善に、畢生の精力を集注せられる、我芋野作三君は、先般來同志を糾合せられました、愈々本日を以て、第一回農具陳列會を開催せられる運びになりましたのは、實にお目出度事存じます、諸君今更絮説するの必要もありませんが、農具の善悪は恃り勢力の多少に大關係あるのみならず、收穫上にも

尠からざる影響を及すものであります、芋野君の發明に係る、幾多の農具は、從來農具の缺點を補ふて餘りあるものでありますれば、成るべく速かに各農村に普及して、勞力を省いて收穫を高めるやうに致したいものであります、諸君が御承知の如く、我國刻下の農政としては、未だ俄かに米國式の大農法を學ぶ譯には参りませんから、責めては器具の幾分にも、改善に改善を加へて、進んでは大農式に進展するの覺悟がなくてはなりません、之より芋野君が、農具の使用に付て一場のお話がある筈でありますから、私は之にて壇を下る事に致します、私は諸君一同を代表致しまして、芋野君に深厚なる敬意を表します。私

(く) 演 説 体

活版職工組合會に於て

諸君……… 私は今日の集會に参列致しましたのを好機として、私が平生遺憾に思つて居ります事を、忌憚なく披瀝して、諸君の御一考を煩したのであります、御承知の通り私共の職業は、他の職業とは大に趣きを異にして居るのであります、毎日々々目ご手に觸れる所の者は、文明機關の根原、即ち人智發達の要素とも云ふべき、活字である事は申上けるまでもありません、聊か我田引水かも知れませんが、私共の職業は、比較的高尙なものに信じて居ります、其高尙の職業に従事する所の御互は、或意味に於ては、文明建設者の一員であらねばな

りません、處が諸君……今日活版職工の有様はいかん、其言動の野鄙にして不謹慎なる事は、實に言語同断ではありませんか、多少の給金を攫めば、家の子あるをも顧みず、忽ち遊里に飛んで行くか、或は酒舗に去つて性慾を満たす事に、汲々として居るのであります、一体が慙んな有様でありますから、いつも給金の前借のみ致しまするが故に、工場主からは、加減に冷待されても、自己相當の權利を主張する事も出来ず、所謂涙出で、呉に嫁すの陋態を學ばねばならないのであります、之で果して文明建設者の一員と云はれませうか、又果して職業の高尙なるを、誇る事が出来ませうか、昔しから活版職工で、成功した者のない所以も、御互胸に手を當れば、忽ち判る事であらうと思ふのであります、で既往の事は最早致方ありませんから、今後は御互大に品行を戒飾して、地位の昂

上を謀るに共に、名實相負かざる所の人間となつて、御互の天職を完ふしたいものであります。

### 活動寫眞館開業式の辭

社會教育に尤も熱心なる、世話野燒造君は、風教上大に感化を與ふべきものを選んで、之を映寫して、一般公衆の觀覽に供したいと云ふので、去ぬる何月何千坪の地所を買収せられ、爾來多數の大工左官等を使役され、御覽の如き宏壯なる寫眞館が落成致しまして、愈々本日を以て其落宴を舉げられる事となつたのであります、場所と云ひ設備と云ひ、殆んど非難すべき点がないのでありますから、自今開場毎に、必ず満員の盛況を呈するところは必然の事であらうと思ふのであります。



す、私が世話野君に希望する所は、辯士の人ごなりを精選せられる事、映畫其物の選擇を過らぬやうにせられる事であり、勿論世話野君は、夙に此点にお氣付のやうでありますから、今更ら私共の容喙すべき事ではありませんが、只だ私は本館の隆盛を希望するの餘り、一言申上げた次第で、所謂老婆の杞憂たるに過ぎません、謹んで本館の隆盛と世話野君の成功を祈ります。

### 九州視察團隊出發に際して

諸君……諸君は春色駘蕩の今月今日を以て、愈々九州視察の途に就かれるのであります、御一行の中には、文士あり詩人あり、畫家あり書家あり、將た商工業に従事して居られる人々もありますから、諸君が専門々々の智識を以て、各種

の御觀察がありましたならば、あらゆる方面に涉りまして、啓發すべき事が澤山あるだらうと信ずるのであります、歸來……文士詩人の靈筆によつて、山川秀麗の奇勝を傳へられましたならば、私共は居ながらにして其風光に接する想が生ずるのでありませう、又畫家の彩筆によつて、山川風土の異なる所を繪かれましたならば、又必ず私共は其地を踏み其人に接するの感が起るであらうと思ひます、且つや商工業の觀察によりまして、其地々の状態を報告せられましたならば、私共の商業的工業的の智識を増進する事は、いか計りであらうか、今から楽しんでお待ちする次第であります、諸君が御胸中の愉快もさる事ながら、私共が諸君に期待する樂みも亦た其分量に於ては、變りないと思ふのであります、願くは諸君の一行は、海陸恙なく、九州全土を踏破して、御歸還あらんことをお

待ち申して居ります。

(や) 演 説 体

夜 學 校 開 校 式 の 辭

本市には小學、中學、女學、其他工藝等の學校あり、教育機關は、殆んど完備の盛觀を呈して居りまするが、只だ遺憾に堪へないものは、書間事務に鞅掌する所の各商店の子弟を收容する、夜學校の設置なき一事であります、商店の子弟は、漸く國民教育を受けた位のものでありますから、將來一人前の男となつて、社會に活動するには、今少しの學力を要すべきものであります、家庭の事情が許しません爲めに、心ならずも小商店員となつて、實地の見學に従事する次第であります

359 演 講 と 説 演

ます、斯る子弟を收容する夜學校を設置して、此缺陷を補はんと思ひ立つた人は是迄いくらもありましたが、教員の聘雇其他の事情で、到頭實現する事が出来なかつたのであります、幸ひにも私共御同感の育英學校長大石投三先生が、其筋へ献議せられました、育英小學の校舍を、夜間の教授所に充當するの允許を得られ、愈々今夜開校の舉式を見るに至りましたのは、幾多子弟の爲めに、大に祝福すべき事であり、殊に大石先生には、學あり徳あるの人で、而も再餘の諸先生も、皆子弟の教育には、充分の經驗を有せられる方々でありますれば、其子弟に及す所の智徳の感化も、亦た多大なるべしと信するのであります、私は歡喜の餘り蕪辭を呈して、今夜の開校を衷心より祝福致すのであります。

## 藪入小僧を送るの辞

地獄の釜の蓋が明く云ふ、幽明兩界に亘る公休日、衣服は勿論の事、下駄、手拭、小使錢に至るまで、残る限なく行渡つた、店主のプレゼントで、身支度一切を整へ、腕車に打乗り、意氣揚々、家庭に歸省して、父母の恩顧に接する皆さんの心中は、ドノ位楽しい事でありませうか、想像するだに嬉し涙が、ほろ／＼落ちそうであります、積る話に飽いたならば、晝寝する事も、芝居を見る事も、將た寄亭を覗き、活動を見ることも、今日こそは天下晴れての自由の身であれば、皆さんは思ふ存分、歡樂の限を盡してよいのであります、只だ私が注意して置たい事は、天麩羅を喰つて氷水を飲んだり、西瓜を嚙つて石花菜を噉たりする事だ

けは、見合せて貰ひたいものであります、藪入の崇りで、藪蛇を出すやうな、疫病神にでも取付つては、實に詰らない話でありますから、皆さんの首途に際してかくは一言心付け申すのでゝる。

## (ま) 演 説 体

## 盲啞學校卒業式の辭

目があつても目の川を爲さず、口があつても口の役を爲さぬ人間が、世間其例に乏しからずであります、諸君は失明の人であつても、自由に街衢を往來し、又は觸覺によつて、物体の性状及び効用をも、忽ち鑒別するの才慧ある以上は、韓子の所謂目に盲して心に盲せざるの人云はねばなりません、天稟已に拔群の才

慧を有せらるゝそが上に、學校教育によつて、音曲其他の技藝までも、修得せられて、茲に卒業の光榮を荷はれましたのは、諸君の才慧もさる事ながら、諸先生の指導其宜しきを得たるの賜ものである事は、諸君の牢記せざるべからざる事だと思ふのであります、今後諸君は、各自修得の技藝によつて、明眼者を壓倒するの勇氣を以て、社會の競争場裏に活動せられたならば、世人の同情と共に大なる成功を遂げられる事は、私の信じて疑はざる所でありませぬ、私は之を以て卒業の祝辭を致します。

### 待合開業祝宴の席上に於て

諸君……一寸御挨拶かたく、私が待合を開業致しました動機を、お話し申上

けたいのであります、待合を申せば、世の人は恰も魔窟のやうに思つて居ります、決して其んなものではありません、勿論多くある待合の中には、随分風紀を紊すものがないでもありませんが、全体が皆さうであるに云ふのは、少し酷だと思ふのであります、會社か銀行か、將た政黨政社なきの協議は、理論から申しますれば、衆目環視の中に、公々然是非を闘してよい譯であります、世の中の事は、却々理窟一遍で行つてゆけるものでもありません、時には秘密に熟議を重ねなければならない事もあります、斯る場合に臨みまして、尤も必要なる者が待合であらうと思ふのであります、蘭燈影暗い所で、細々秘密を明し、縷々妙策を語るには、誰れ憚る者もありませんから、怎うしてもなくてはならないものと思ふのであります、そこで私は以上の機關に提供する考へで、柄にもない此營業を

思立つた所以で、強ちに風紀を紊す譯の者ではありません、御覽の如く此家は、四邊が閑靜でありますから、政府員と議員との妥協や、反對議員買収などの、秘密相談場所にしても、尤も絶好であらうご存じますれば、何分各位の御愛顧を願ふのであります、聊か開業の祝意を表するまでに、諸君に粗酒一盃献じますれば、ごうか緩々お遊び下さるやう、只管懇望致すのであります。

(け) 演 説 体

縣會議員立候補發表の辭

諸君……本縣逐鹿戰の現状を見渡まするに、定員四十名の處に、既に立候補の名乗りを揚げた者が五十名以上であります、本郡から立候補を宣言致して居りま

する者も、既に五名からあるのであります、此五名は政治上の經驗に於ても、將た名望に於ても、無論私よりか先輩であります、先覺であります、私は京大卒業後、末だ三年にも達せない位でありますから、總ての点から申しまして、到底以上の五人に及ぶべくもござりませんが、只だ縣を思ひ民を思ふの一事に於きましては、五人に優ることも敢て劣らぬ考へを有つて居るのであります、慙ふ申上けては、或は人身攻撃のやうに、御聽取あるかも知れませんが、夫の五人者は、已に過去の人であつて、未來の人ではありません、過去の縣政にまつては、或は適當であつたかも知れませんが、未來の縣政にかけては、決して囑望すべき人々でない事は、私が斷言して憚らない所であります、已に功成り名遂げた人々でありますれば、今頃は最早政界を勇退して、後進に跡を譲るべき筈のものでありま

す、然るに權勢に戀々たる五人者は、敢て此舉に出でないで、私に輪贏を争ふこと云ふのでありますから、私は成敗利鈍は一切眼中に置かないで、飽くまで苦闘を續けて見る積りであります、新時代に適合する人物を擧ぐるか、未來を有さない人物を擧ぐるか否かは、此處一兩日の間に迫つて居るのであります、私は賢明なる諸君の御判断に訴へて、諸君が清き一票を私の爲めに投ぜられることを希望致しますのであります。

### 縣會議員推薦の辭

諸君……愈々縣會議員の選舉運動が開始せられまして、各候補者は勿論、之に附從する所の運動員も、日夜東奔西走して、有權者を訪問致して居ります、然る

に未だ政見を發表して、自己の抱負を有權者に公示するやうな事は、一人も致しませんのであります、戸別訪問の如きも、立候補者が有權者に對するの禮義であるに、善意に解しますれば、左まで咎むべき事ではありませんが、何等政見なくして、徒らに叩頭百拜を以て、當選の榮譽を荷はふこと云ふに至つては、決して輕く看過する事は出來ないのであります、言ふまでもなく議員てふ榮冠は、木偶的人物の頭上に加ふべきものではありません、少なくとも辯舌手腕抱負の三つが揃つた者でありませなんだならば、神聖なる議政壇上に立つ資格はない者こそねばなりません、斯の如き木偶議員が、よし議政壇上に立ちました處が、一笑の下に葬られる計りで、何等縣政に對して、貢獻するものではありません、私共が推薦致しました阿古野辯三君は、京大出身の秀才で、人格學問手腕の三つに於きま

しても、既に群に抜いて居る所の人でありますれば、本郡の利害休戚を重ぜられる所の人々は、此際感情や情實なごの私事は擲らて、阿古野君に諸君の清き一票を投じて戴きたいものであります。

### 縣會議員當選の謝辭

諸君……不肖私の如き者が、當選の榮冠を戴くこと云ふ事は、或は不可能ではあるまいか、多少心配致して居りましたが、同情に富ませらるゝ有権者諸君が多なる御援助によりまして、最高点を以て當選の名譽を荷ふに至りましたのは偏に諸君の御力に外ならぬのであります、就きましては、諸君の御期待に背きませぬやう、専ら縣政の刷新を謀りまするに同時に、從來郡民諸君の眼前に横つ

て居る、幾多未解決の問題に對しましても、出来能ふ限りは、之が解決を促しまして、諸君の御希望を満たすやう、盡力致す覺悟であります、今日は單に諸君に向つて、御禮を申上げる事に留めて置きます。

### 劇場落成式の辭

諸君……穩健なる社會の發達を謀らんご致しますには、又穩健なる社會政策が之に伴はねばならないのであります、其方法としては、色々ありませうが、尤も直接に善惡の刺戟を與へるものは、演劇であります、演劇の内容が、風教を裨益すべき程のものでありますれば、其人心の感化に、影響するごは、實に絶大なものであります、若し劇其物の内容が、淫靡な氣分に満ちて居りましたり、又

は癡悪な分子が含まれて居たり致しますれば、それが社會人心に、悪影響を及ぼすことは、恐るべきものであります、今回新築せられた、井上氏の社會座は、深く思ひを茲に致されて、外觀から内容まで、美を盡し善を盡したものでありますれば、愈々開場の曉には、必ずや満都の人心を一新するものがあらうと信ずるのであります、私は今日此落成をお喜び申上るに共に、井上氏が斯道改善の爲めに、多大の資本を投じて、社會改良の任に膺られました、勇氣と義氣に對して深甚の敬意を表するのであります。

### 藝妓營業稅輕減協議會に於て

成金黨の凋落と同時に、忽ち不景氣風に襲はれたものは、私共の隊業でありま

す、一昨年の今頃は、電燈の点火時刻になりますれば、大抵お座敷の三つや四つはかゝつたものであります、それ位盛況を極めたものですから、自然御互様のポケットも、福徳がらくであつたんですが、今は又打つて變つた不景氣で、まんの悪い折には、夜の十二時になつても、お茶をひく事があるのであります、之は恐らく私一人ではありますまい、此處にお集りの姉さん方一般の事と信ずるのであります、斯る場合に際して、其節は少しの御心酌もなく、好景氣の時と同一の税金を徴收されるのは、實に非道いではありませんか、殊に取締りの八釜敷のにも、一驚を喫するのであります、時間外に待合の二階に、悠然酒の酔ひでも醒して居れば、忽ち刑事が現れて、痛くもない腹を探られるのであります、御無理御尤も、イ、加減に受流して居れば、途方もない御小言を頂戴する事は、皆さん



ち定めし御經驗なされた事と思ふのであります、お客からはこぼされ、役人からは苛められ、而も収入はからつけつで、税金徴収は嚴重に來るのでありますから實以て遣り切れぬやありませんか、此分で押し通したならば、藝妓の干物が大安賣になつて、市場に現れるかも知れないのであります、之れぢや逆も堪つたものではありませんから、此際其筋に掛合て、税金の軽減を願つて見やうぢやありませんか、萬一不許可の折は、神戸の労働屋さんに倣つて、ストライキをオツ始めて、當分の間は晝寝でもして居る方が、この位呑氣だか知れませんが、私の説に御賛成の方は、右の手をお舉げ下さい、オヤ満場一人残らずの舉手では、愈々其筋へ掛合ふ事に致します、交渉の責任は憚りながら私が引受けますから、皆さんは先づ見物の積りで御出下さい、お話は之で切上る事に致します。

### (ふ) 演 説 体

#### 佛教講話會に臨みて

諸君………只今私 が事新らしく申上るまでもありませんが、日本の憲法には、明らかに宗教の自由を許してありますから、耶穌教を信じやうと、回教を信じやうと、それは其人々の勝手でありませんが、我々日本人に致しましては、既に日本の國體と、よく融和して居ります佛教を信するものが、頗る安全ではあるまいかと思ふのであります、夫のバイブルの如き、コーランの如きも、素より服膺すべき金言を以て満されて居りますが、君臣の關係や、父子の恩情なきに至りまするに、往々日本の道徳と、杆格して居る點がありますから、見やうによつては、或

は恐るべき結果を來さぬとも限りませんが、勿論耶蘇信者側の人は、決してそんな杞憂を抱く必要はないと申すかも知れませんが、現に耶蘇が其生みの母に對する言動や、マホメットが其妻妾に於ける行動などは、到底日本道徳と一致すべきものではありません、さらだに近來社會主義などの、危険思想を抱く人間が、續々現れて來まする以上は、猶更之に接近する事は、大に考へねばなりません、我佛教に於きましては、元來印度よりの輸入物は申す者の、幾多の高僧や、幾多の善智識によつて、業に已に日本化されて居りますから、之に由て安心立命の地步を占むるに云ふ事は、尤も安全で而も了解し易いものでありますから、我々は飽迄佛教に歸依して、信念を昂めると共に、益々之が發展普及に、力を注ぎたいものであります、一寸私の所信を述べて、諸君の御參考に供する所以であります。

す。

## (ふ) 講演体

## 鮎の効用

諸君……甚だ失禮なお話ではありますが、私は毎年秋期になりますと、必ず下痢に罹るので、之が療養には、多少研究致したものであります、處が怎う云ふ工合か、私にはドンな収斂劑も滋養物も、何等の効もないのであります、父祖の代から、鮎は下痢止の妙藥であるに云ふ事を、聞いて居たのでありますから、丁度戊戌の八月に、例によつて下痢に罹りましたので、萬一を庶幾する爲めに、鮎を試用致したのであります、然るに不思議にも、拭ふが如く回復致しましたから、

それを紀念する爲めに、古風一篇を作つて、世の同病に罹れる人の参考に供するの  
であります。

患痢戯作長謠

今茲戊戌八月秋。鯨飲三斗自買憂。日夜劇瀉頻上廁。舌燥唇焦  
又渴喉膏梁不味己。一句忽爲澤畔行吟人。又似累々喪家狗。神  
氣昏頓幾嘔呻。四肢無舉眊。双眸起臥依人不自由。一醫招來託  
脉診。束手只言不輒瘳。肉羹髓粥慵飲嚙。腹鳴臍響。睚愈泄。眼凹  
頰凸瘠如鶴。此時誰又不挫折。御耐於我大還丹。奇効復優熊膽  
丸。苦悶想之忽朶頤。直差小僮墨江干。小僮健步不移時。購來澄  
劑咸振緒。細爲炙兮大爲餽。頻々下箸傾酒卮。陶然醉來氣亦雄。

殆忘疾疾在我躬。此時日落天借月。微塵不動露滴空。詩情勃々  
呼毛錐。吟咏揮灑墨淋漓。室人怪訝爲狂發。我獨怡々撫疎髭。休  
道參著與木香。回復元氣不尋常。堪驚御耐回生効。頑頑纔見般  
若湯。人若有離此濕熱。勿誤庸醫迂腐說。須將御耐代藥石。同情  
不借告秘訣。

漢詩の心得のない人は、或は御了解にならないかも知れませんが、之を譯する  
事に致しませう。

今茲戊戌八月の秋。鯨飲三斗自ら憂ひを買ひ、日夜劇瀉頻りに廁に上る、舌燥  
唇焦けて又喉を渴す、膏梁味はざること己に一句、忽ち澤畔行吟の人とな  
り、又累々たる喪家の狗に似たり、神氣昏頓幾たびか嘔呻す、四肢舉ぐるなく

双眸眊し、起臥人に依りて自由ならず、一醫招き來りて脉診を託す、手を束ねて只だ言ふ輒く瘳へず、肉羹饘粥飲啜するに慵く、腹鳴り臍響へて腫愈泄らす、眼は凹み頬は凸く瘡せて鶴のごとし、此時誰か又挫折せざらん、鯽鮒我に於ては大還丹、奇効復かに優る熊膽丸、苦悶之を想ふて忽ち頤を朶る、直ちに小僮を墨江の干に差す、小僮健歩時を移さず、購ひ來りて潑刺咸鰭を振ふ、細を炙りものごなし、大を餵ごなし、頻々箸を下して酒卮を傾く、陶然酔ひ來りて氣も亦た雄なり、殆んご疾疾の我躬にあるを忘る、此時日落ちて天月を借す、微塵動かす露空に滴る、詩情勃々毛錐を呼び、吟咏揮灑すれば墨淋漓、室人怪訝狂發せりごなす、我獨怡々ごして疎髭を撚る、道ふごごを休めよ參著ご木香ご元氣を回復する尋常ならずご、驚くに堪へたり鯽鮒回生の効、頤頑纒か

に見る般若湯、人若し此濕熱に離るあらば、誤るゝなかれ庸醫迂腐の説に、須らく鯽鮒を將て藥名に代ふべし、同情惜ます秘訣を告ぐ。

(一) 演 説 体

國會議員推薦の辭

諸君……國會議員は、縣會議員なごは、大に其性質を異にして居りますから若し我選舉區に於て、相當の人物が見當らない場合は、假令輸入であらうご何であらうご、人格、學識、手腕の三つが、備つて居る人であれば、敢て之を拒む譯ではありませんが、選舉區民を代表するに足るべき人物がある以上は、何も好き好んで、輸入候補者なごの、提灯を持つ必要はないのであります、我市では定員